

令和4（2022）年度スポーツ庁委託事業

令和4年度「障害者スポーツ推進プロジェクト（地域の課題に対応した障害者スポーツの実施環境の整備事業）」

成果報告書

2023年4月
（筑波大学）

目 次

1. はじめに	1
2. 本事業の概要	2
3. 事業実施者（プロジェクトメンバー）	6
4. 本事業内容	7
4-1. 事業実施の背景と目的	8
4-2. 定着研修会 WG	9
1) 活動概要	
2) 活動目標	
3) WG メンバー	
4) 活動内容	
5) まとめ	
6) 今後の課題	
4-3. 教材コンテンツ WG	32
1) 活動概要	
2) 活動目標	
3) WG メンバー	
4) 活動内容	
5) まとめと今後の課題	
5. 今後の課題	37
6. 附録資料	39

1. はじめに

事業実施責任者 齊藤まゆみ

令和4年度「障害者スポーツ推進プロジェクト（地域の課題に対応した障害者スポーツの実施環境の整備事業）」は、障害者スポーツの実施に向けた教員に対する研修の実施（教員の障害者スポーツ指導員資格の取得促進のための取組を含む）を含む事業として進めて参りました。

私どもは地域における通常の小中高等学校の体育現場において、障害者スポーツ指導の基本である「アダプテッド体育・スポーツ（以降、アダプテッド）」の視点が定着することを最終目標とした長期計画をたてました。今年度は、第2クール（2022年度-2024年度）の初年度になります。検討課題1として、全国6箇所地域で地域の小学校教員を主な対象に定着研修会を実施し、地域条件における実施上の問題と課題を明らかにすることとしました。そして検討課題2として、教材コンテンツWGを設置し、第1クールにおいて実働してきたガイドブックWGと広報WGを統合し、学校教育現場でアダプテッドを日常的に実践できるための教材コンテンツの企画および開発を行い、これらが実際に現場で活用できているのかを検証して参りました。そこで構築されたのが、「Challenge アダプテッド；<https://adaptedproject.jimdofree.com>」です。ぜひご覧ください。まだ進行中のプロジェクトですので、得られた知見をみなさまにご活用いただき、ご意見を頂戴できれば幸いです。

本プロジェクトは、筑波大学と国内におけるアダプテッド体育・スポーツ学に関わる学術団体との有機的連携で進められました。この報告書には、スポーツを通じた共生社会の実現という社会的課題に応えるべく、大学の垣根を超えてスペシャリストが知恵を出し合い、さらにワーキンググループによる試行・実践を経た評価をもとに導かれた内容がまとめられています。地域における通常の小中高等学校の体育現場において、アダプテッドの視点が定着するための基礎資料として活用されることを期待しています。

最後になりましたが、本事業にご協力いただきました多くの方々に感謝いたします。

2023年3月

2. 本事業の概要

1) 事業目的

障害者スポーツ推進プロジェクトの趣旨に基づき、スポーツを通じた共生社会の実現に向けて、日本各地において障害者が健常者と同様にスポーツを親しめるようにすることの実現が求められるなか、われわれは、地域における通常の小中高等学校の体育現場において、障害者スポーツ指導の基本である「アダプテッド体育・スポーツ（以降、アダプテッド）」の視点が定着することを最終目標に、2019年からの3年間で、定着研修会コア・カリキュラムの作成およびガイドブックとホームページによる教材コンテンツの構築を行いました。この3年間の成果を踏まえ、2022年度から2025年度の3年間で、全国20都市における定着研修会の開催と自走に向けた組織づくりの検討を進めることとしました。そして2022年度においては、検討課題1として、全国を6ブロックの地域に分け、地域の小学校教員を主な対象に定着研修会を年に1回実施し、地域条件における実施上の問題と課題を明らかにする。そして検討課題2として、新たに教材コンテンツWGを設置し、学校教育現場でアダプテッドを日常的に実践できるための教材コンテンツの企画および開発を行い、それらの教材コンテンツが現場で活躍できるかを検証することとしました。加えて検討課題3として、最終目標の達成に向けた将来構想におけるアジェンダを示すこととしました。

2) 定着研修会の全国実施の開始

研修会の全国展開を進めていくために、全国の6か所で研修会を実施しました。すなわち、千葉県、愛媛県、愛媛県伊予地区、愛知県、長野県、青森県で実施されました。実際の研修会の受講者は合計300名以上で、アンケート回答者は232名でした。また研修会の内容は、主に講義として「インクルーシブ体育の意義と理念」、演習として「アダプテッドおよびインクルーシブ」に関する内容のものであり、評価方法として、「アダプテッド・センシティブ尺度（AS尺度）」を使用して行いました。

以上の実施結果から、6か所全ての研修会において望ましい変化が確認されました。特に、小学校教員の参加が多かった愛媛県や愛知県の研修会において、参加前後で望ましい変化がみられました。その地域の状況をよく把握している講師が担当することで、

地域の特性や条件に適合した研修会を実施することができ、効果が期待できることが分かりました。

3) 教材コンテンツの充実

アダプテッドを理解する導入としての役割を果たすガイドブックの更新を行いました。すなわち、2021 年度作成したガイドブックについて、「実践編」の内容を更新した。視覚障害、聴覚障害、知的・発達障害、肢体不自由に、病弱・虚弱を加えた 5 カテゴリーとしました。対象単元も拡充し、「体づくり運動」「器械運動」「走・跳の運動」「陸上運動」「水遊び・水泳運動」「ゲーム」「ボール運動」「表現運動」の領域で 13 種目を加えました。

またガイドブックの内容と整合させた実践例を紹介する HP を更新しました。ガイドブックを PDF でダウンロードできるように、HP 上で公開しました。また、ガイドブック「実践編」の更新に合わせて、HP のアダプテッド活動例紹介動画を拡充し、随時公開をしました。音声と字幕での説明をよりわかりやすく編集するとともに、全体のレイアウトをみやすく整理しました。

教材コンテンツの広報と評価測定の取組みとして、HP を紹介するチラシを作成し、各研修会や教育委員会を通じて教育関係者に配布しました。チラシや HP で教材コンテンツ（ガイドブック・HP）に関する Web アンケート調査への協力を依頼しました。

4) 今後の課題

2023 年度目標として、全国 12 箇所において定着研修会を実施、地域を熟知した講師の選出方法および養成方法について検討することとしました。またガイドブックおよび HP が実際に現場で活用できるかを、研修会のなかにガイドブックや HP を活用するセッションを設けて実施する等して、評価測定を行うことにしました。また研修会案内と報告を掲載し、定着研修会の参加を促進することにしました。加えて、自走化に向けて、アダプテッドに関する公共事業や活動との連携を行い、アダプテッド推進ネットワークを構築し、年度末にキックオフフォーラムを開催予定です。これを基盤に組織化の足がかりとすることとしました。

本事業の概要

事業目的

最終目標

地域における通常の小中高等学校の体育現場において、障害者スポーツ指導の基本である「アダプテッド体育・スポーツ（以降、アダプテッド）」の視点の定着

1クール

2019年度～2021年度

成果

- ◎ 「定着研修会コアカリキュラム」の試案
- ◎ 定着研修会のプロトタイプおよびさまざまな研修会スタイルの実証
- ◎ 研修会用ガイドブックの作成と公開
- ◎ 現場志向型のコンテンツ構造をもったHPの構築

2クール

2022年度～2024年度：全国20都市で年間1回以上の研修会実施

2022年度目標

- ◎ 全国6地域において、定着研修会を年に1回実施し、地域条件における実施上の問題と課題を明らかにする
- ◎ 研修会内容にリンクしたガイドブックとHPの教材コンテンツが、実際に現場で活用できているかを検証する

本事業の概要① 定着研修会WG

アダプテッドの視点の浸透に向けた研修会の全国展開

活動概要

昨年度の事業で研修会コアカリキュラムが様々な時間枠を想定した研修会で効果的であることが確認された。そこで今年度は、研修会の全国展開を進めていくために、全国の6か所で研修会を実施した（千葉県、愛媛県、愛媛県伊予地区、愛知県、長野県、青森県の6か所。研修会の受講者は合計300名以上で、アンケート回答者は232名）

研修会の内容

【講義】インクルーシブ体育の意義と理念

【演習】アダプテッド演習、インクルーシブ演習

評価方法

アダプテッド・センシティブ尺度（仮称AS尺度）

による評価

考察および効果の検証

6か所全ての研修会において望ましい変化が確認された。特に、小学校教員の参加が多かった愛媛県や愛知県の研修会でも参加前後で望ましい変化がみられた。その地域の状況をよく把握している講師が担当することで、地域の特性や条件に適合した研修会を実施することができ、効果が期待できることが分かった。次年度はさらなる全国展開を目指す。

愛知県での研修会の事前事後の変化 (n=59)

	事前	事後	T値
アダプテッドの理解度(4点満点)	1.91±0.81	3.85±0.49	16.42**
インクルーシブの理解度(4点満点)	2.87±0.97	3.70±0.66	7.65**
障害のポジティブイメージ(6点満点)	2.37±1.74	4.70±1.70	8.43**
障害者スポーツのポジティブイメージ(6点満点)	4.44±1.71	5.19±1.07	3.28*
アダプテッド体育の主体性(6点満点)	3.11±1.49	3.81±1.52	3.17*
アダプテッド体育への実践力(6点満点)	5.46±0.57	5.63±0.49	2.13*

** p<.01, * p<.05

本事業の概要② 教材コンテンツWG

アダプテッドを理解する導入としての役割を果たすガイドブックの更新

ガイドブックの更新

2021年度作成したガイドブックについて、「実践編」の内容を更新した。視覚障害、聴覚障害、知的・発達障害、肢体不自由に、病弱・虚弱を加えた5カテゴリとした。対象単元も拡充し、「体づくり運動」「器械運動」「走・跳の運動」「陸上運動」「水遊び・水泳運動」「ゲーム」「ボール運動」「表現運動」の領域で13種目を加えた。

ガイドブックの内容と整合させた実践例を紹介するHPの更新

HPコンテンツの拡充

ガイドブックをPDFでダウンロードできるように、HP上で公開した。また、ガイドブック「実践編」の更新に合わせて、HPのアダプテッド活動例紹介動画を拡充し、随時公開した。音声と字幕での説明をよりわかりやすく編集するとともに、全体のレイアウトを

教材コンテンツの広報と評価測定の取組み

1. HP紹介チラシの作成と配布

HPを紹介するチラシを作成し、各研修会や教育委員会を通じて教育関係者に配布した。チラシ、HPで教材コンテンツ(ガイドブック・HP)に関するWebアンケート調査への協力を依頼した。

今後の取組み 教材コンテンツの更なる拡充と評価測定調査方法の検討



本事業の概要

次年度課題

最終目標

地域における通常の小中高等学校の体育現場において、障害者スポーツ指導の基本である「アダプテッド体育・スポーツ（以降、アダプテッド）」の視点の定着

2クール

2022年度～2024年度：全国20都市で年間1回以上の研修会実施

2022年度の成果

- ◎ 全国6地域において定着研修会を実施、地域を熟知した講師であることが条件で、効果的な成果を得ることができた
- ◎ ガイドブックおよびHPにおいて実践的内容を充実した。実際に現場で活用できているかは、その検証方法の検証が必要とされた

2023年度に向けた課題

- ◎ 全国12地域において定着研修会を実施、地域を熟知した講師の選出方法および養成方法について検討する
- ◎ ガイドブックおよびHPが、実際に現場で活用できているかを検証する

事務担当：筑波大学 澤江幸則 sawae.yukinori.ka@u.tsukuba.ac.jp

3. 事業実施者（プロジェクトメンバー）

阿部 崇 東京家政大学 准教授（教材コンテンツ WG 座長）
天野 和彦 筑波技術大学 准教授（教材コンテンツ WG 委員）
安藤佳代子 日本福祉大学 准教授（定着研修会 WG 委員）
今城 遥 聖カタリナ大学 助教（定着研修会 WG 座長）
内田 匡輔 東海大学 教授（実行委員会委員）
小沼 博義 茨城県立友部特別支援学校 教頭（定着研修会 WG 委員）
金山 千広 立命館大学 教授（実行委員会委員）
齊藤まゆみ 筑波大学体育系 教授（代表・実行委員会委員座長）
澤江 幸則 筑波大学体育系 准教授（渉外担当・実行委員会委員・定着研修会
WG オブザーバー・教材コンテンツ WG オブザーバー）
重藤誠市郎 東海大学 非常勤講師（教材コンテンツ WG 委員）
凶子 美和 筑波大学体育系 非常勤事務員（事務作業担当）
曾根 裕二 大阪体育大学 准教授（定着研修会 WG 委員）
中嶋 実樹 弘前大学附属特別支援学校 教諭（定着研修会 WG 委員）
中田ちづか 筑波大学附属視覚特別支援学校 教諭（教材コンテンツ WG 委員）
萩原 大河 兵庫県姫路市立水上小学校 教諭（定着研修会 WG 委員）
日野 克博 愛媛大学 教授（定着研修会 WG 委員）
藤田 紀昭 日本福祉大学 教授（実行委員会委員）
牧 舞美 兵庫県立阪神昆陽特別支援学校 教諭（教材コンテンツ WG 委員）
松原 豊 こども教育宝仙大学 非常勤助教（教材コンテンツ WG 委員）
宗田 光博 埼玉県立特別支援学校大宮ろう学園 教諭（教材コンテンツ委員）
村上 祐介 順天堂大学 助教（実行委員会委員・定着研修会 WG 座長）
吉岡 尚美 東海大学 教授（教材コンテンツ WG 座長）
吉永 武史 早稲田大学 准教授（実行委員会委員）
綿引 清勝 いわき短期大学 講師（教材コンテンツ WG 委員）

（2023年3月31日現在）

4. 本事業内容

4-1. 事業実施の背景と目的

障害者スポーツ推進プロジェクトの趣旨に基づき、スポーツを通じた共生社会の実現に向けて、日本各地において障害者が健常者と同様にスポーツを親しめるようにすることの実現が求められています。加えて、「第2期スポーツ基本計画」で指摘されているように、特別支援学校以外の学校に在籍する障害児も含めた障害児の体育・スポーツ活動についても、現状の課題や全学校種の教員向けの研修等の推進の必要性等が指摘されています。一方、それらを推進するためのリーダー的存在、つまり障害児のための体育、アダプテッド体育・スポーツやインクルーシブ体育・スポーツの視点や技術を、各地域の学校に定着していくための指導者（以下、講師）が不足していることも指摘されています。

そこでわれわれは、地域における通常の小中高等学校の体育現場において、障害者スポーツ指導の基本である「アダプテッド体育・スポーツ（以降、アダプテッド）」の視点が定着することを最終目標とし、2030年に、地域の通常の小中高等学校の少なくとも体育授業を担当している教員のうち、9割が障害のある子どもを受け持つことに対して抵抗感を感じず、8割が障害のある子どもに指導することに不安を感じないで、7割が「アダプテッド」の用語を聞いたことがあるなかで、6割が、アダプテッドの視点をもって指導できるという数値目標を立てました。

上記の目標を達成するために、2019年からの3年間で、定着研修会コア・カリキュラムの作成およびガイドブックとホームページによる教材コンテンツの構築を行いました。まず定着研修会コア・カリキュラムの作成では、教員免許更新講習会で標準的に実施される6時間の研修会を想定したカリキュラムを作成し、その効果を検証しました。さらに、校内研修を想定した1.5時間の研修会や、大学等の公開講座で実施される12時間の研修会など、幅広い研修会に応用できるカリキュラムであるかどうかを検証しました。一方、ガイドブックとホームページによる教材コンテンツの構築では、研修

会での一過性の学びに加えてその後の主体的な実践に活用できる教材として、各種障害や実施する種目等に応じたコンテンツの基礎を構築することができました。

以上の3年間の成果を踏まえ、2022年度から2025年度の3年間では、全国20都市における定着研修会の開催と自走に向けた組織づくりの検討を進めることとしました。

【2022年度検討課題】

検討課題1：全国を6ブロックの地域に分け、地域の小学校教員を主な対象に定着研修会を年に1回実施し、地域条件における実施上の問題と課題を明らかにする。

検討課題2：これまで2つに分かれていたガイドブックとホームページのWGを統括し、新たに教材コンテンツWGを設置し、学校教育現場でアダプテッドを日常的に実践できるための教材コンテンツ（ガイドブックの公刊、ホームページコンテンツの構築など）の企画および開発を行い、それらの教材コンテンツが現場で活躍できるかを検証する。

検討課題3：実行委員会において、最終目標の達成に向けた将来構想（研修会や教材コンテンツの管理およびホームページの運営などを行う組織の在り方、教員養成課程におけるカリキュラム提案等）におけるアジェンダを示す。

4-2. 定着研修会 WG

1) 活動概要

定着研修会 WG では、教員を対象とした研修会を通して、アダプテッド体育・スポーツの理解を促進し、インクルーシブな体育授業の実践ができる教員を育成することを目指しています。そして、全国的に学校現場にアダプテッド体育・スポーツの視点を浸透させていくために、指導力向上の研修会や講習会の講師となるリーダー的人材の育成及び確保に向けて、その手法を検討しています。2019 年からの 3 年間で、アダプテッドの視点を定着させるための定着研修会プロトタイプをもとにした多様な研修タイプの効果の一端を明らかにすることができました。具体的には、2019 年度から開発をはじめた「定着研修会コアカリキュラム」を軸とし、昨年（2021 年度）は異なる研修時間に応じた効果的な研修内容の検証を行いました。教員免許更新講習会を想定した研修会 A（6 時間）や大学等の主催で実施される長時間の研修会 B（12 時間）、一般的な半日タイプの研修会 C（3 時間）、そして校内研修等で実施される短時間の研修会 D（1.5 時間）において、各研修会のニーズや限られた時間の中で効果的な研修会を実施する方法を開発することができました。とりわけ、本プロジェクトで主な対象としている小学校の教員を対象とした校内研修（研修会 D）において、他の研修会とほぼ同じ水準で効果が確認されたことは大きな成果となりました。

以上の成果を踏まえ、今年度からは、研修会を通じたアダプテッドの視点の浸透に向けて全国展開を目指すことに取り組むこととしました。そのために、最初の 3 年間（2022 年度から 2024 年度）では、全国大都市に該当する 20 都市（総務省、2010）で地域の小学校教員を主な対象とした研修会を年間 1 回以上実施することを目標としました。1 年目の 2022 年度は、全国を 6 ブロックの地域に分け、各地域において 1 回以上の研修会を実施するとともに、地域条件における実施上の問題と課題について検討することとした。想定する参加者数は全国、総数 300 名の小学校に在籍する教員（体育を専科とするものを優先する）とすることとしました。

図 1 は、これまでの成果をもとに作成された 2022 年度版の定着研修会コアカリキュラムです。これらの内容を軸とし、2022 年度の各ブロックでの研修会を実施していくこととしました。

【定着研修会コアカリキュラムと具体例】

定着研修会コアカリキュラム	具体例等
(1) アダプテッドの理論的位置づけ (講義)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 項目例) ※ガイドブック理論編より ・スポーツすることは人権 ・障害のある人のためのインクルーシブ教育
(2) 障害児体育の実態の理解 (講義)	<ul style="list-style-type: none"> ・障害のある子どもたちの声 ・インクルーシブな体育を実現するには ・アダプテッドとは？アダプテッドの理論 ・アダプテッドと合理的配慮
(3) アダプテッドに特化した演習 (演習)	<p>スポーツの魅力を阻害するものを取り除くアダプテッドの工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 演習例) ・目が見えない人がボッチャを楽しむには？ ・車いすの人がバレーボールを楽しむには？ ・知的障害のある子どもへの発達段階に応じた指導とは？
(4) インクルーシブに特化した演習 (演習)	<p>活動するうえでの「違い」を前提とした活動内容の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 演習例) ・おにごっこ、玉入れなどの遊びを障害のある子どもと一緒に楽しむには？ ・各種スポーツ(ご自身の専門種目)を「違い」を前提としてインクルーシブに楽しみむには？

定着研修会の実施における確認事項

- 「アダプテッドの理論的位置づけ」や「障害児の体育の意義(「アダプテッド」と「インクルーシブ」の関係性)」は冒頭の講義に必ず入れる
- アダプテッド演習については、障害種や扱う運動課題などを具体的に設定し、主に個にアダプテッドする方法を考える
→ その際、アダプテッドは「試行錯誤、トライ&エラーの連続」であることを強調し、例えば3段階(自分で考える→グループで考える(やってみる)→他のグループの考えをもとにさらに再考する)を設定できるとよい
- インクルーシブ演習については、例えば「自分が担当している通常級で、支援級の子どもも含めたインクルーシブな体育授業を行う場合にどうするか」のような具体的な場面の解決につながる内容にすると入りやすいのではないかと
→ その際、アダプテッド演習と同様に、「試行錯誤、トライ&エラーの連続」であることが伝わるように段階的に設定できるとよい

2

図1 定着研修会コアカリキュラム 2022年版と具体例 (担当講師に配布したもの)

① 研修会の方針

全国を6ブロックの地域に分け（北海道・東北ブロック、関東ブロック、中部ブロック、関西ブロック、中国・四国ブロック、九州・沖縄ブロック）、地域の小学校教員約300名（人数は柔軟に対応）を主な対象として定着研修会を年に1回実施し、地域条件における実施上の問題と課題を明らかにする。

② 研修内容

昨年度（2021年度）の成果として得られた「定着研修会コアカリキュラム2022年版」（上記の図1）に沿って講義および演習を行うが、担当する講師の判断で内容を変更してもよい。

③ 研修方法

講義および演習による研修を行う。新型コロナウイルス感染症によりオンラインとなる場合は、昨年度の研修内容を踏まえて内容を工夫して実施する。

④ 対象となる研修会

地域の条件や特性に合わせた研修会を目指すために、各地域の教育委員会等が主催する研修会と連携して研修会を実施する。

⑤ 研修会講師

各地域で先進的な取り組みを行っている専門家を研修会の講師とすることが望まれるが、現状はそのような土台が整っていないため、本WGメンバーや実行委員会のメンバーが主に講師を担当する。

⑥ 研修会の評価

研修の前後に10分程度時間をとり、事前事後のアダプテッド・センシティブ尺度（AS尺度）によって評価を行う。また自由記述による感想などがある場合は、それらも評価の参考資料とする。

2) 活動目標

地域の小学校教員を主な対象とし、昨年度までの成果である「定着研修会コアカリキュラム2022年版」に基づいた研修会の効果を検証するとともに、各地域条件における実施上の問題と課題を明らかにする。

3) WGメンバー

今年度の定着研修会 WG の目的を達成するために、以下のメンバーで組織することとした。

安藤佳代子	日本福祉大学
今城遥	聖カタリナ大学（座長）
小沼博義	茨城県立つくば特別支援学校
曾根裕二	大阪体育大学
中嶋実樹	弘前大学教育学部附属特別支援学校
萩原大河	兵庫県姫路市立水上小学校／広島大学大学院人間社会科学研究科
日野克博	愛媛大学
村上祐介	順天堂大学（座長）
澤江幸則	筑波大学（オブザーバー）

4) 活動内容

今年度の事業開始に伴い、実行委員会および定着研修会 WG から関連する研修会の情報収集を行い、以下の研修会を分析対象とすることができた。研修会の受講者数の合計は 387 名であり、事前事後アンケートの回答者は合計 230 名であった。以降では、各研修会について順次説明していく。

- 研修会 a：関東ブロックの a 県教育センター主催の研修会
- 研修会 b：中国・四国ブロックの b 県小学校体育連盟の研修会
- 研修会 c：中部ブロックの c 県教育委員会主催の研修会
- 研修会 d：中国・四国ブロックの d 県内の小学校体育連盟
- 研修会 e：中部ブロックの e 県体育センター主催の研修会
- 研修会 f：北海道・東北ブロックの f 県内の指導者講習会

4-1 研修会 a

対象：関東地区の a 県教育センター主催の研修会

日時：2022 年 7 月

場所：a 県内のスポーツ施設の体育館

参加者：教員 54 名（事前事後アンケート回答者 54 名）

■ 定着研修会としての構造

表 1：研修会 a のカリキュラム構造

時間	校内研修会としての行程	定着研修会としてのカリキュラム
9:40	はじめに アンケート説明	事前アンケート記入
9:40 12:30	【講義】 1. アダプテッドとは その理念と実践 2. 運動発達の視点からの支援～発達性協調運動障害とは～	障害児の体育指導の意義と理念 インクルーシブ教育とは アダプテッドとは
13:30 16:20	【実技演習】 1. 運動発達特性に応じたアダプテッドの実践 2. インクルーシブの体育実践を考える	アダプテッド演習 インクルーシブ演習
16:20	まとめ	事後アンケート記入
16:30	終了	

■ 定着研修会の評価

アダプテッド・センシティブ尺度（AS 尺度）によるアンケート調査を実施し、事前事後の数値の差について対応のある t 検定を用いて分析した。結果を図 2 に示した ($n = 54$)。「障害のポジティブイメージ」（事前： 3.04 ± 1.73 、事後： 4.30 ± 1.53 、 $t(53) = 5.90$ ）と「アダプテッドの主体性」（事前： 3.15 ± 1.58 、事後： 4.11 ± 1.42 、 $t(53) = 4.21$ ）、「アダプテッド理解度」（事前 1.85 ± 0.92 、事後 3.81 ± 0.48 、 $t(53) = 15.50$ ）、「インクルーシブの理解度」（事前： 3.44 ± 0.63 、事後： 3.83 ± 0.42 、 $t(53) = 4.56$ ）については事前と事後で有意な差が認められ、事後の方が高い数値であった。また「障害者スポーツのポジティブイメージ」（事前： 5.00 ± 1.10 、事後： 5.13 ± 1.06 、 $t(53) = 0.87$ ）と「アダプテッド体育への実践力」（事前： 5.54 ± 0.99 、事後： 5.83 ± 0.38 、 $t(53) = 2.53$ ）については事前から数値が高く、天井効果が示唆された。

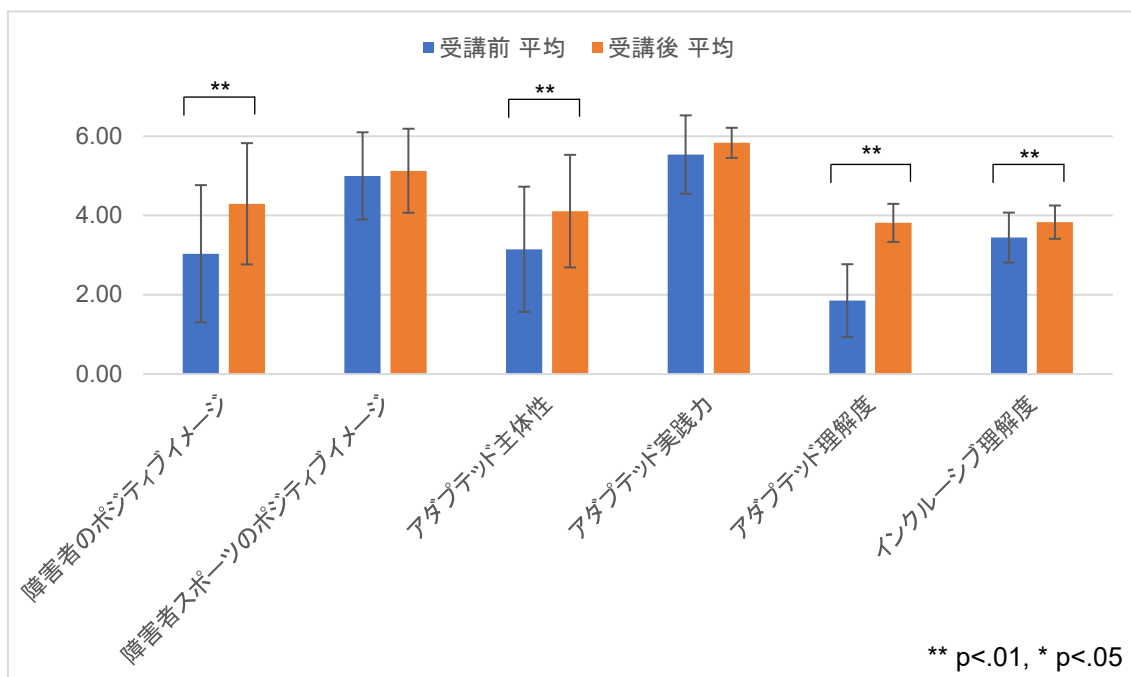


図 2 : 研修会 a における事前事後の AS 尺度の変化

- 定着研修会の様子など（講師担当者より）
 - ・ センターの担当者より、今回の研修会は参加希望が多く、定員（60名）が早々埋まってしまった。県でもはじめて「アダプテッド」という用語を研修会のタイトルに入れてみて、そのニーズの高さが伝わってきた。
 - ・ 午後の実技演習を通して、参加者同士のやり取りや情報交換ができた点がよかった。
 - ・ 若手の先生が多かった（20代 29名、30代 19名）。
 - ・ ほとんどの先生が「アダプテッド」という用語を知らない状況で、研修を通して「アダプテッド」を知ってもらう機会となった。
 - ・ 「障害者スポーツのポジティブイメージ」と「アダプテッド実践力」は事前事後ともに高かった（「アダプテッド実践力」の天井効果）。
 - ・ 現在の所属先（特別支援学校 or 小中高等学校）で比較してみたところ、事前の「障害者のポジティブイメージ」に有意な差が認められた ($t(52) = 2.19, p=.03$)。一方、事後では有意な差が認められなかった ($t(52) = 0.62, p=.53$)。もともと「障害者のポジティブイメージ」が低かった小中高等学校所属の先生に対して、障害のイメージを変えるきっかけとなったかもしれない。
 - ・ 自由記述より、4名中2名の高等学校所属の先生から、障害のある生徒への対応や

能力差に関するコメントがあった。

■ 効果検証に関する議論

- ・ 運動発達の段階のところは、「その段階で楽しむためにどうするか」も大事にしてほしい。体育の先生は「次の段階に進むためにどう指導するか」に意識が集中しがちである。それも大事だが、アダプテッドの視点では「その段階でどう楽しむか」という観点も大事。またアンケートの障害のイメージについては、昨今の特別支援を巡る動向の中で「障害」ではなく「困っていること」への支援が強調されているので、そのことが影響しているのではないか。
- ・ (他の) 研修会の担当者として、研修会の内容を参加される先生方の属性に合わせることも重要だと感じた。a 県の研修会は半数以上が特別支援学校の教員だったが、他県での研修会は特別支援学校の先生が数名だった。そういった参加者の属性の違いに応じて研修会をどのような内容に組み立てるかが今後の課題。
- ・ 参加された先生方の基礎免許はどうか。特別支援学校では基礎免許が体育ではない先生が体育を担当することもあるので、体育に関する指導法を学んでいる先生ばかりではない。そういった先生にとっては、運動発達の段階などの基礎的な部分を知ることがとても大事。アダプテッドは体育や運動に関する基礎的なところを押さえた上で実施されるもの。バレーボールの演習で円陣パスが扱われているが、バレーボールの専門家として円陣パスはパスの練習の中でも難しい部類に入る。課題自体に扱う難しさがあるかもしれない。
- ・ 運動発達の段階のところ、肌感覚では、何となくみんな発達していくだろう、と思っている先生も少なくないかもしれない。基礎的なことを学ぶ機会や学んできた先生もあまりいないのではないか。指導の話に議論が進むことも教員という立場ではよく分かるところがあるが、改めて基礎的な発達のことを知る意義も確認できた。天井効果のところは、重みづけによって何らかの影響がでているのではないか。
- ・ 教員だけでなく子どもたち同士でお互いを認め合ってルールを考えるような取り組みもある。関連する研究論文を最近発表したけど、研究に協力いただいた先生も子ども同士でルールを考えていくような授業ができればよい、と語っていた。今後そういった意識が広まってくると体育も変わっていくのではないか。

4-2 研修会 b

対象：中国・四国ブロックの b 県小学校体育連盟主催の研修会

日時：2022 年 8 月

場所：b 県内のスポーツ施設の体育館

参加者：小学校教員 160 名（事前事後アンケート回答者 47 名）

■ 定着研修会としての構造

表 2：研修会 b のカリキュラム構造

時間	校内研修会としての行程	定着研修会としてのカリキュラム
10:00 11:40	(b 県小学校教員体育研修会) * 基調提案 * 研究発表	・ 受付で資料配付 ・ 昼食時に事前アンケート記入(入力)を依頼
13:00 13:30	【講義】 ・ これからの体育授業のあり方 ・ 「アダプテッド」の考え方と体育授業 ・ 実技研修の進め方	・ アダプテッド体育とは(定義, 意義) ・ アダプテッドの進め方 ・ アダプテッドの必要性 ・ 教材例の紹介
13:30 15:00	【実技演習】 ・ 小学校体育(ボール運動:ネット型) ・ パラスポーツの教材化	・ アダプテッド演習 ・ パラスポーツの教材体験
15:00 15:20	まとめ 閉会式	事後アンケート記入(入力)を依頼
15:30	終了	

■ 定着研修会の評価

アダプテッド・センシティブ尺度 (AS 尺度) によるアンケート調査を実施し、事前事後の数値の差について対応のある t 検定を用いて分析した。結果を図 3 に示した ($n = 47$)。「障害のポジティブイメージ」(事前： 2.26 ± 1.80 、事後： 4.17 ± 1.55 、 $t(46) = 5.75$)と「アダプテッド理解度」(事前： 1.81 ± 0.99 、事後： 3.66 ± 0.84 、 $t(46) = 10.01$)、「インクルーシブの理解度」(事前： 3.23 ± 0.56 、事後： 3.64 ± 0.61 、 $t(46) = 5.15$)については事前と事後で有意な差が認められ、事後の方が高い数値であった。また、「障害者スポーツのポジティブイメージ」(事前： 4.68 ± 1.49 、事後： 5.06 ± 0.76 、 $t(46) =$

1.51) と「アダプテッド体育への実践力」(事前: 5.72 ± 0.45 、事後: 5.83 ± 0.38 、 $t(46) = 1.94$) については事前から数値が高く、天井効果が示唆された。

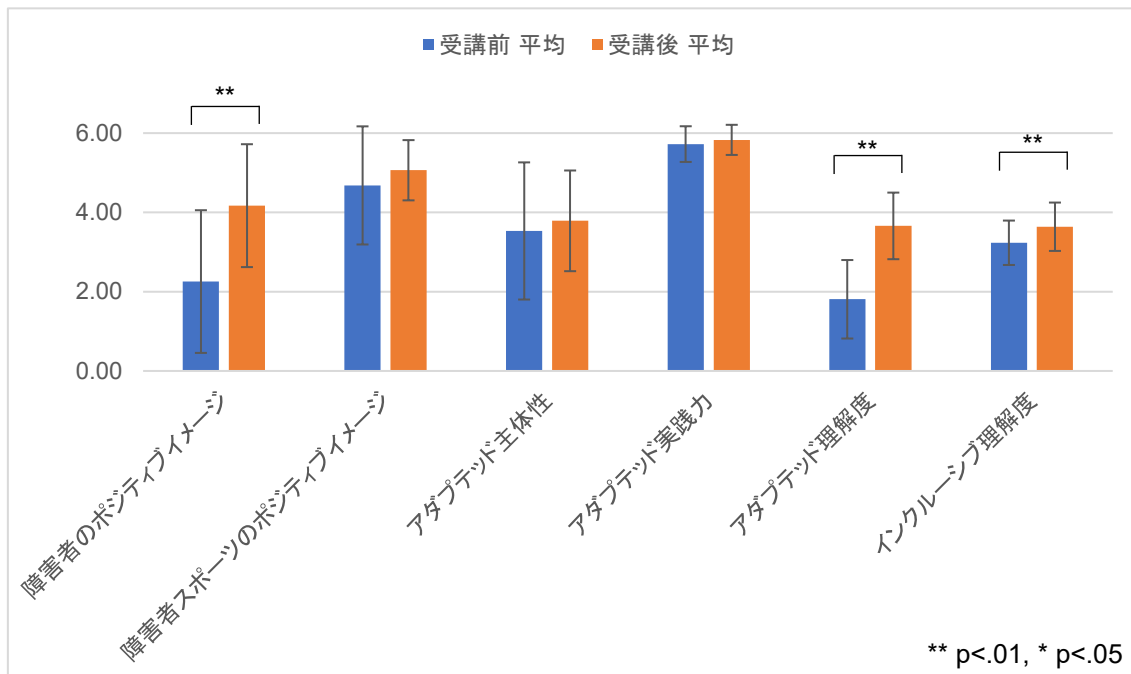


図 3 : 研修会 b における事前事後の AS 尺度の変化

① 定着研修会の様子など (講師担当者より)

- ・ b 県の体育研修会にて研修を行った。もともとアダプテッドを中核とした内容ではなかったが、「子どもがつなぐ 笑顔あふれる体育学習」というテーマのもと、「新たな視点で『つくる』を重視した体育の授業づくり」を担当した。
- ・ 新しくスポーツを「つくる」という視点は、体育やスポーツに対して主体となって子どもが関わることを意味している。その際にアダプテッドの視点はとても重要である。
- ・ アダプテッドの説明については、昨年度本プロジェクトで作成されたガイドブックやホームページを活用して説明を行った。
- ・ b 県で実際に取り組まれている体育授業の事例を踏まえ、「楽しい『接戦のゲーム』をつくる」ことを目指した取り組みが紹介された (ハンドリー、シッティングバレー)。子どもの実態に合わせて条件やルールを修正していくが、その際に目的や課題を明確にすることが大事である。その点、「接戦のゲーム」という明確な目的が

設定されることで条件やルールの修正が行いやすくなった。

② 効果検証に関する議論

- ・ 「接戦のゲーム」を目的として子どもたちがルールを作っていくプロセスに驚いた。こういった実践はほとんど行われていない印象があったが、b 県ではすでに行われているのか。
- ・ 従来のスポーツは、定められたルールの中で技能を高めていき、平等な条件で勝ち負けを争うスタイル。そういった理念のもとで行われる授業はなかなかアダプテッドが難しい。一方で、スポーツを「楽しむ」「おもしろい」を目的とする授業も行われている。そこでは、「楽しさ」や「おもしろさ」を自分達で作りに出す力が必要になってくる。その一例として、「接戦のゲーム」がある。現場でもよく「ルールを工夫する」ということが言われるが、何を目的とするか、が不明確なままでは工夫の仕方も難しい。何を目的とするか、をもっと大事にして、その上でルールの工夫やアダプテッドを考えてスポーツを作っていくことが求められる。
- ・ 素晴らしい実践。この実践の延長で例えば障害のある子どもがいた場合も、その子どもの理解が十分にできていれば子ども達同士でルールを作っていけるのではないかと感じた。そこでは、「合意」がとても重要であると感じた。障害のない子どもが「やっつけてあげる」のではなく、お互いの意見をもとに合意形成を図ることで、みんなが納得して楽しく参加することができる。
- ・ 実践の中で、プレイヤー自身がルールを考えることもあれば、ゲームを見ている側が接戦になるようにルールを作っていくこともやっている。
- ・ 指導案も紹介されていたが、配布資料の中に指導案も入れて配布されたのか。
- ・ 印刷した指導案も配布し、またQRコードから見られるようにもした。
- ・ お互いの合意形成を図りながらゲームのルールを修正していくところがよい。おそらく、運動が得意な子どもや上手な子どもはやっていくうちにどんどん制限が加わっていくと予想されるが、その際にも基本的には子ども同士で合意を図っていくので、様々な状況に応じて応用していける内容であると感じた。

4-3 研修会 c

対象：中部ブロックの c 県教育委員会主催の研修会

日時：2022 年 8 月

場所：c 県内のスポーツ施設の体育館

対象：c 県内の体育教員 66 名（事前事後のアンケート回答者 59 名）

■ 定着研修会としての構造

表 3：研修会 c のカリキュラム構造

時間	校内研修会としての行程	定着研修会としてのカリキュラム
9:30	はじめに アンケート説明	事前アンケート記入
9:40 11:50	【講義】 学校におけるアダプテッド体育・スポーツの 考え方	アダプテッドとは アダプテッドの必要性・進め方 インクルーシブ教育とは
13:30 15:50	【実技】 学校におけるアダプテッド体育・スポーツ演 習 (ボッチャ)	アダプテッド演習 インクルーシブ演習
15:50 16:00	まとめ(質問)	事後アンケート記入
16:10	終了	

■ 定着研修会の評価

アダプテッド・センシティブ尺度 (AS 尺度) によるアンケート調査を実施し、事前事後の数値の差について対応のある t 検定を用いて分析した。結果を図 4 に示した ($n = 59$)。「障害のポジティブイメージ」(事前: 2.37 ± 1.74 、事後: 4.70 ± 1.70 、 $t(58) = 8.44$) と「障害者スポーツのポジティブイメージ」(事前: 4.44 ± 1.71 、事後: 5.19 ± 1.07 、 $t(58) = 3.28$)、「アダプテッドの主体性」(事前: 3.11 ± 1.49 、事後: 3.81 ± 1.52 、 $t(58) = 3.17$)、「アダプテッド体育への実践力」(事前: 5.46 ± 0.57 、事後: 5.63 ± 0.49 、 $t(58) = 2.13$)、「アダプテッド理解度」(事前 1.91 ± 0.81 、事後 3.85 ± 0.49 、 $t(58) = 16.41$)、「インクルーシブの理解度」(事前: 2.87 ± 0.97 、事後: 3.70 ± 0.66 、 $t(58) =$

7.65) のすべての項目について、事前と事後で有意な差が認められ、事後の方が高い数値であった。

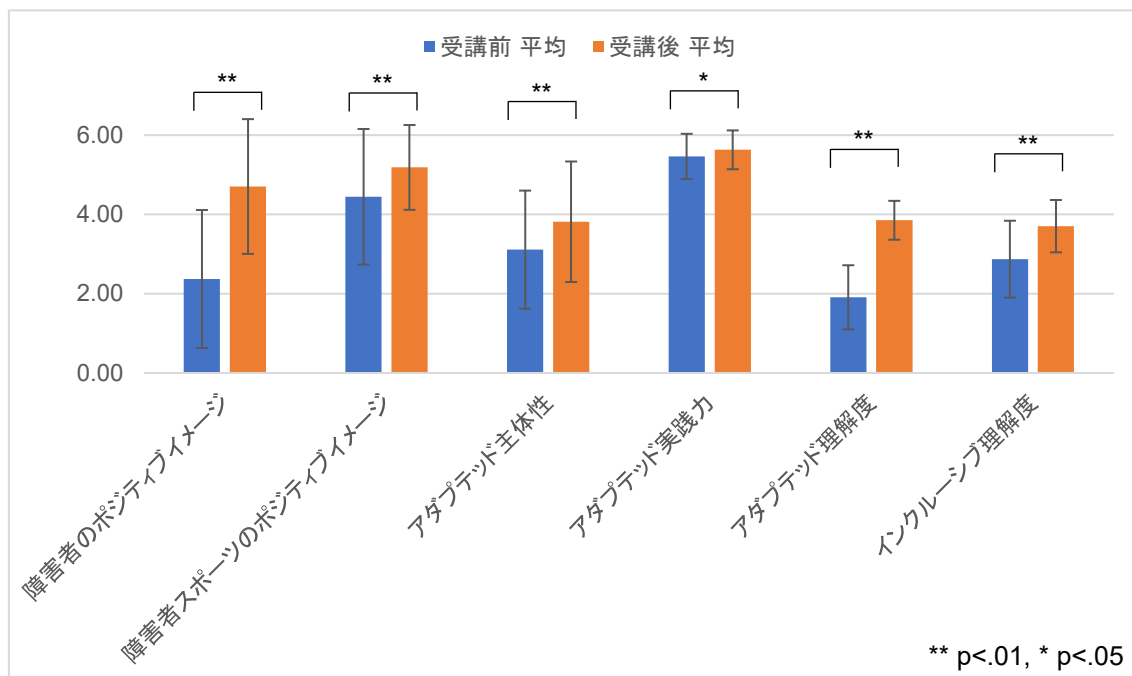


図 4：研修会 c における事前事後の AS 尺度の変化

① 定着研修会の様子など（講師担当者より）

- ・ 体育教員のための研修会に 60 名参加。研修の内容は午前中に講義、午後から実技（ボッチャの要望あり）だった。
- ・ 自治体としてボッチャを持っているところが多いが、実践に繋がっていなかったため、本研修ではボッチャを実施した。アダプテッドの考え方について話をし、パラ教材にも使えるということから、「I'm possible」の資料を用いて講義をおこなった。見える障害と見えない障害から教材を考えるというグループワークをおこない、実技はボッチャをおこなった。
- ・ グループ分けは全校種の教員が均等に入るようわけてもらい、コートの設定からグループごとに実施してもらった。健常者もボッチャを楽しめるという意図から、初めは参加者に楽しんでもらい、戦術なども考えながら対戦する流れでおこなった。その後、障害のある人が参加者の中にいる場合、どうするか考えながら実施した。
- ・ アンケートの結果から、ボッチャ自体がインクルーシブスポーツであるため、前向

きな意見が多く、ポジティブな変化が認められた。

- ・ 感想の中で印象的だったのは、中学・高校の教員から、「障害のある子に合わせたスポーツをすると、競技性の確保ができないのでは」といった意見があった。こういった感覚を持っている現場の先生が多いことが伺え、本研修会の意義を再確認できた。

② 効果検証に関する議論

- ・ スポーツの本質とアダプテッドの視点の両立が難しいという意見に対しては、アダプテーションゲームを導入するといった方向で進めればよいのではないかと思った。アダプテッドの実践力については、天井効果になっているのではないか。小学校の先生は教材を子供に合わせることが習慣づいている。中学・高校など、校種によって受け入れられ方が異なるのではと感じた。
- ・ 様々な地域で実施して、事前に回答のあったものを集計し、校種によって元の意識に差があるかもしれないので、データの処理方法を検討すればよいのではないかと思う。中・高に上がるにつれて、スポーツの競技性が高まり、教員もその部分に対して指導していると思うので、アダプテッドの意識の定着の必要性が高いと考える。
- ・ 自分自身がおこなっていたことの振り返りができた。「情報源がある」ということを知ることで、検索に繋がり、アダプテッドの意識が浸透していくのではないかと感じた。大学体育に関するある研修会では、「一般体育の授業で体育が苦手だと回答する学生が多い」というものがあった。これまでの体育授業の中で、他の人と比較した評価を受けてきたことにより、スポーツの本質である楽しみながら学ぶという部分を知らないままに卒業したのでないかと考えた。こういった生徒を減らすためにも、評価の部分を改善する必要があると考える。
- ・ 前任校において、体育に対して苦手意識を強く感じている学生やスポーツをする意義がわからない学生が多かった。アダプテッドの視点から授業をおこなうと、学生は楽しんでいたし、学生がローカルルールを創って実践している様子があった。そういった関わりから、その後の学生の運動意欲が高まったと思う。
- ・ 評価の観点についても、研修会で伝えていけるようにする必要があるのではないか。
- ・ 評価は技能では難しいので、思考・判断で評価している。支援学級の児童の技能については、支援学級の教員と相談している。

4-4 研修会 d

対象：中国・四国ブロックの d 県内の小学校体育連盟

日時：2022 年 8 月

場所：オンラインによる実施（コロナの影響により直前でオンライン開催に変更）

参加者：小学校教員 30 名（事前事後アンケート回答者 17 名）

■ 定着研修会としての構造

表 4：研修会 d のカリキュラム構造

時間	研修会としての行程	定着研修会としてのカリキュラム
9:00	はじめに(メインルーム) ・アンケート説明	事前アンケート記入
9:10 9:40	【参加者同士の自己紹介】(ブレイクアウトルーム) ・グループメンバーで自己紹介をしながら普段の授業で困っていることなどを話す	
9:40 10:50	【講義】(メインルーム) ・アダプテッドとは ～その理念と実践～	障害児の体育指導の意義と理念 インクルーシブ教育とは アダプテッドとは
10:50 11:50	【演習】(ブレイクアウトルーム) ・インクルーシブな体育を考える	アダプテッド演習 インクルーシブ演習
12:00	まとめ	事後アンケート記入

■ 定着研修会の評価

アダプテッド・センシティブ尺度（AS 尺度）によるアンケート調査を実施し、事前事後の数値の差について対応のある t 検定を用いて分析した。結果を図 5 に示した ($n = 17$)。「障害のポジティブイメージ」（事前： 2.47 ± 1.50 、事後： 4.47 ± 1.66 、 $t(16) = 3.69$ ）と「アダプテッド理解度」（事前： 2.06 ± 0.97 、事後： 4.00 ± 0.00 、 $t(16) = 8.28$ ）、「インクルーシブの理解度」（事前： 3.12 ± 0.78 、事後： 3.94 ± 0.24 、 $t(16) = 4.20$ ）については事前と事後で有意な差が認められ、事後の方が高い数値であった。「アダプテッド体育への実践力」（事前： 5.59 ± 1.00 、事後： 5.65 ± 1.00 、 $t(16) = 0.16$ ）については事前から数値が高く、天井効果が示唆された。

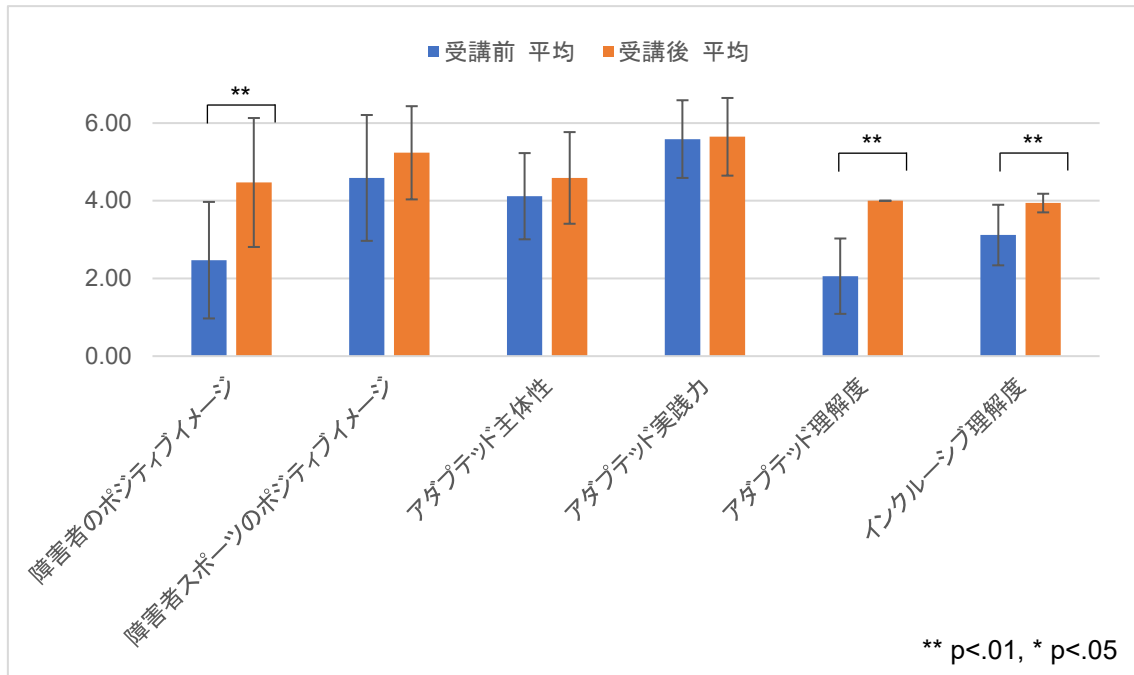


図 5：研修会 d における事前事後の AS 尺度の変化

① 定着研修会の様子など（講師担当者より）

- ・ 共生にむけた体育に関する実技演習という趣旨の研修会で、実技メインの予定であった。そのため、講義の部分でアダプテッドの考え方を丁寧に説明することが難しかった。
- ・ 実技演習では、オンラインのために具体的に体を動かしながらの実施はできなかったが、先生方の積極性に助けられるとともに、「あれこれ考えながらやってみる」という試行錯誤の様子が見られた。本 WG で大事にしてきた試行錯誤のプロセスを共有するという点は十分に達成できた。
- ・ 事前にゴール型教材という希望があったことから、講義から演習にかけて一貫してゴール型（サッカー）を題材として例を活用しながら進めることができた。教材を一貫させることで演習の議論も自然に入りやすかった。

② 効果検証に関する議論

- ・ アダプテッドの主体性の項目の数値が期待したように上がらなかった印象がある。この点、最近の筑波大学の紀要論文にも掲載されていたが、主体性が上がりにくさ

は専門性が高すぎて取り組みづらいことや用具の準備の難易度があるように感じる。また、研修会という性質上、専門家によるサポートに頼ってしまう傾向があるかもしれない。

- ・ 教師側の授業づくりのハードルを下げる必要がある。身近にあるものを使って簡単に実践ができると思ってもらうことで、この主体性は上がるのでは。そういった部分も研修会で提案できるとよい。
- ・ 他の研修会の題材のように、例えばボッチャをするだけでも、ボッチャの作り方や借用する方法など、そういった部分を知るだけで教える側のハードルは下がるかもしれない。

4-5 研修会 e

対象：中部ブロックの e 県体育センター主催の研修会

日時：2022 年 10 月

場所：e 県内のスポーツ施設の体育館

対象：学校教員 67 名（事前事後アンケート回答者 43 名）

■ 定着研修会としての構造

表 5：研修会 e のカリキュラム構造

時間	研修会としての行程	定着研修会としてのカリキュラム
9:45	開講式 アンケート説明	
10:00 11:30	講義 アダプテッド・スポーツの考え方	障害児の体育指導の意義と理念 インクルーシブ教育とは アダプテッドとは
11:30 15:50	実技 ネット型スポーツを例としたアダプテッド	アダプテッド演習 インクルーシブ演習
16:00	まとめ(質疑応答) 終了	事後アンケートの記入 HP のチラシ配付と説明

■ 定着研修会の評価

アダプテッド・センシティブ尺度（AS 尺度）によるアンケート調査を実施し、事前事後の数値の差について対応のある t 検定を用いて分析した。結果を図 6 に示した（ $n = 43$ ）。「障害のポジティブイメージ」（事前： 3.12 ± 1.40 、事後： 4.56 ± 1.40 、 $t(42) = 6.74$ ）と「アダプテッドの主体性」（事前： 3.63 ± 1.65 、事後： 4.42 ± 1.20 、 $t(42) = 3.28$ ）、「アダプテッド体育への実践力」（事前： 5.67 ± 0.97 、事後： 5.95 ± 0.21 、 $t(42) = 2.21$ ）、「アダプテッド理解度」（事前： 2.19 ± 0.76 、事後： 3.93 ± 0.26 、 $t(42) = 15.07$ ）、「インクルーシブの理解度」（事前： 3.07 ± 0.55 、事後： 3.84 ± 0.37 、 $t(42) = 8.24$ ）について事前と事後で有意な差が認められ、事後の方が高い数値であった。

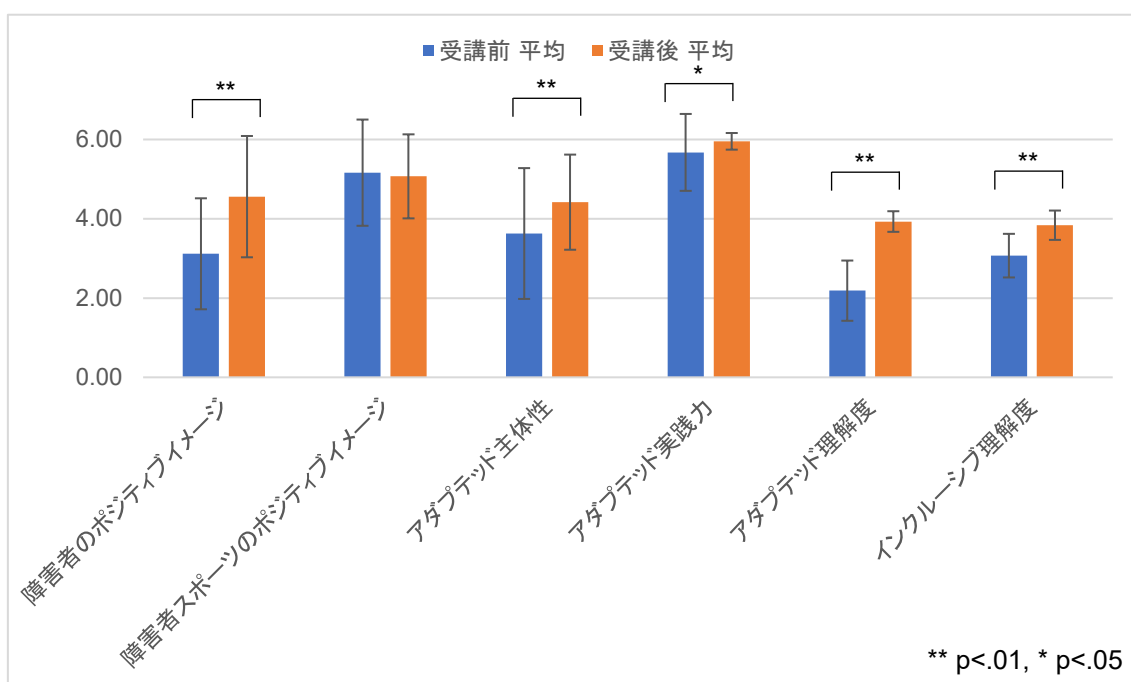


図 6：研修会 e における事前事後の AS 尺度の変化

① 定着研修会の様子など（講師担当者より）

- ・ 研修会の配布資料にガイドブックをつけて配布した。
- ・ 参加者をクラシフィケーションする（みんなが活躍できるように条件を揃える）という試みを行った。
- ・ 実技では、シッティングバレーをおこない、用具やルールの変更などについて議論
- ・ した様子がビデオに記録されていた。

② 効果検証に関する議論

- ・ 障害者スポーツのポジティブイメージについては、点数が実施前より実施後の方が下がる傾向があるが、回答項目の中に「激しい」という言葉があることが影響しているのではないかと。詳細の分析を今後実施していく必要がある。
- ・ 公平性を保つための一つの方法として、クラシフィケーションを導入すると面白いのではないかと。この研修を受けて、先生方がどのような授業を展開されるのか興味がある。
- ・ 天井効果がある項目については、普段から意識されている先生方が多く参加されているのではないかと。記述のアンケート結果があれば見てみたい。
- ・ アダプテッドを意識して、インクルーシブを意識して、という2つを上手く区別して研修をおこなうことができている、興味深かった。
- ・ 今回は実技の時間が十分とれた研修だったため、様々な取り組みができたようだった。
- ・ 配布資料の中にガイドブックをつけてくださっていたようだが、参加者は HP やガイドブックに関するアンケートの回答までいきついたか知りたい。

4-6 研修会 f

対象：北海道・東北ブロックの f 県内の指導者講習会

日時：2023 年 2 月

場所：f 県内のスポーツ施設の体育館

対象：学校教員等 10 名（事前事後アンケート回答者 10 名）

■ 定着研修会としての構造

表 5：研修会 F のカリキュラム構造

時間	研修会としての行程	定着研修会としてのカリキュラム
10:00	開講式 アンケート説明	事前アンケートの記入
10:10～ 12:00	講義 アダプテッド・スポーツとは	障害児の体育指導の意義と理念 インクルーシブ教育とは アダプテッドとは
13:00～	演習①アダプテッド体育	アダプテッド演習
15:00～	演習②インクルーシブ演習 ホームページを活用した演習	インクルーシブ演習
16:00	まとめ	事後アンケートの記入

■ 定着研修会の評価

アダプテッド・センシティブ尺度（AS 尺度）によるアンケート調査を実施し、事前事後の数値の差について分析した。結果を図 7 に示した（n=10）。「障害のポジティブイメージ」（事前：3.11±1.76、事後：4.89±1.05）と「障害者スポーツのポジティブイメージ」（事前：3.67±1.94、事後：5.33±0.50）、「アダプテッドの主体性」（事前：3.56±0.88、事後：4.22±1.20）、「アダプテッド体育への実践力」（事前：4.89±1.27、事後：5.89±0.33）、「アダプテッド理解度」（事前：2.00±1.12、事後：3.56±0.73）、「インクルーシブの理解度」（事前：3.00±1.00、事後：3.67±0.71）とすべての項目について事前よりも事後において数値が高まったことが確認された。

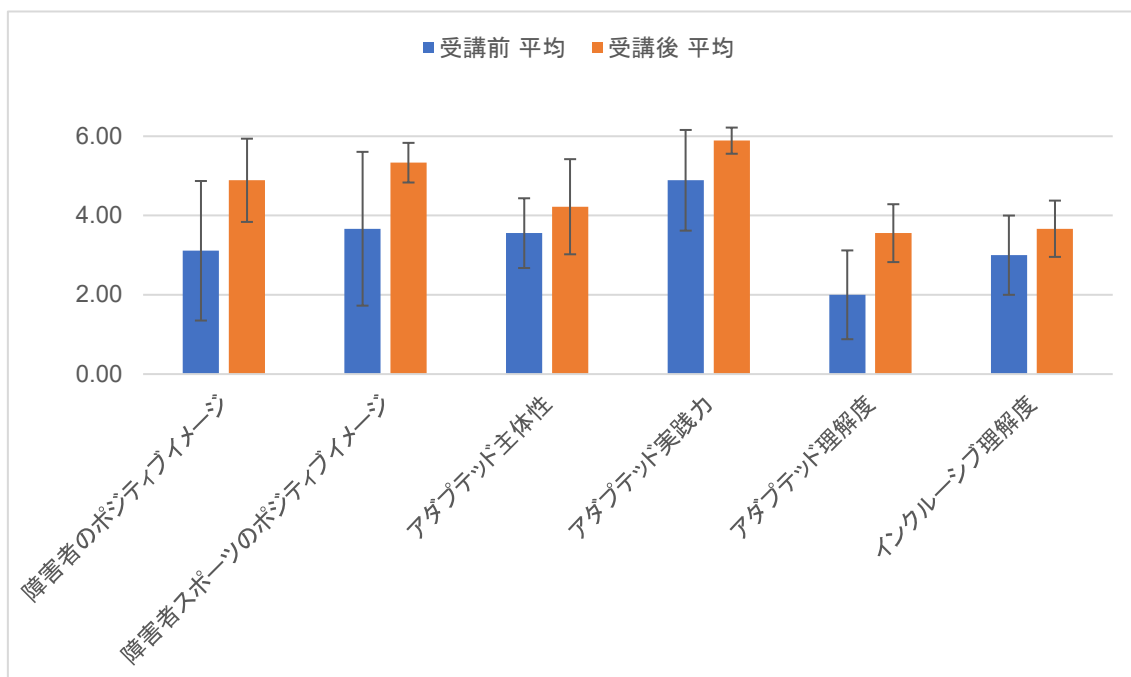


図 7：研修会 f における事前事後の AS 尺度の変化

① 定着研修会の様子など（講師担当者より）

- ・ 講義のはじめにアダプテッドについてのアンケート調査、HP の紹介をおこなった。
- ・ 午前中の講義の流れとして、初めに本プロジェクトの HP を紹介し、その後は基本的なアダプテッドに関する講義を進めた。
- ・ 午後の実技は「ボッチャ」を取り扱い、アダプテッドの演習をおこなった。ボッチャの魅力を考え、障害によって阻害されているスポーツの魅力をどう補うかを考えるアクティビティをおこなった。スポーツの魅力を感じるためにはどうすればよいかをグループごとに話し合い、当事者の「距離・強さ・状況理解」を考えながら実施上の工夫を考えた。
- ・ 何度もゲームを繰り返したことにより、コンテンツを 1 つ飛ばして進めた。飛ばしたコンテンツは、「障害名を伝えずにアダプテッドさせる鬼ごっこ」。
- ・ 実技後、振り返りをしながら、「バレーボールに関するアダプテッドを考える」グループワークをおこない、視覚障害、聴覚障害、知的障害がある人が同時にバレーボールを楽しむためのゲームを考えた。その際に、HP を活用しながらグループワークをおこなうことができるよう、参考資料として提示した。

② 効果検証に関する議論

- ・ 実技の際に、視覚障害者がいる場面設定をした際に、参加者はスムーズに話し合いを展開できたのですか、それとも苦労していたのですか。
- ・ 特別支援学校の教員が複数名参加していたこともあり、障害の特性や基本的な介助の仕方については、その方を中心に情報提供があったため、スムーズに話し合いをおこなっていた。他の参加者にも、自身の経験から簡易化に関するアイデアが提案されていた。その上、全員が疑似体験（アイマスクをつけて視覚障害者役）をしたことにより、当事者意識が芽生えてより具体的な支援の方法を考えることができていた。

5) まとめ

① AS 尺度における良好な変化

今年度の成果の一つとして、総勢 230 名から事前事後のアンケートの回答を得ることができたことがあげられる。「障害者のポジティブイメージ」や「アダプテッド理解度」、「インクルーシブ理解度」は統計的な分析ができたすべての研修会で有意に数値が高くなっており、またその他の項目も基本的に数値が高くなる傾向が確認できた。昨年度までの成果である定着研修会コアカリキュラムの有効性を再確認することができた。一方で、細かく見てみると、例えば「アダプテッド主体性」の項目において研修会ごとにばらつきが見られる。この点については、研修会の参加者の状況（例えば、保有している教員免許の違いや特別支援教育の経験の有無など）によって差が生じている可能性がある。また、今年度は午前と午後を使った充実した研修会の時間を確保できたが、昨年度課題となった 90 分の校内研修等では継続してその効果の検証が必要である。これまでの成果からすべての研修会において一定の水準の効果は確認できているが、その詳細をより深化させて今後も検証していく必要がある。

② 研修内容の共通性と教材コンテンツの活用

定着研修会コアカリキュラムにより、それぞれの研修会では軸となる共通した内容を一律して伝えることが可能となり、その点が研修会の効果に影響している。また、本プロジェクトで作成中の教材コンテンツ（ガイドブック、ホームページ）も研修会で活用できるので、参加者だけでなく講師にとっても効果的なツールとなった。

この点について、今年度実施した研修会 f では、教材コンテンツを研修会の演習の中で活用する試みが行われた。具体的には、ある課題（例えば、視覚障害や聴覚障害、知的障害のある人がみんなと一緒にバレーボールを楽しむためにはどのような方法があるか、など）に対して、参加者がその場でガイドブックやホームページを参照し、お互いに意見交換をしながら教材を考えていくアプローチが行われた。次年度もさらに教材コンテンツ WG との連携を強化し、このような取り組みも含めた定着研修会コアカリキュラムに基づいて研修会を実施していくのがよい。

③ 地域の特性に応じた研修会

今年度は全国展開を目指すべく、様々な地域にて研修会を実施した。その中で、例えば北海道・東北ブロックの研修会では、「アダプテッド」という言葉を知っている人はほとんどおらず、その意味や内容も浸透していないという意見があった。そのため、今回の研修会はとても良い機会となった。一方で、すでに数年前からアダプテッドに関わる研修会が行われてきた地域もあり、そこでは「アダプテッド」という言葉を知っているものの具体的な意味や実践につながる知識を得ている参加者はやはり少ない。このように、地域の特性や参加者の状況に応じて柔軟に研修会の内容も検討を重ねていく必要がある。

6) 今後の課題

① 参加者の特徴や研修会の時間帯に応じた柔軟なプログラム

先述の通り、研修会への参加者の状況によって研修内容の受け取り方や学ぶべき内容は違ってくることが分かってきた。そのことを踏まえると、研修会の参加者や研修会の主催者側の意図などに応じて研修内容を柔軟に組み立てていく必要がある。例えば「アダプテッド」という言葉をほとんどの参加者が知らない地域なのか、あるいは、「アダプテッド」をある程度理解したうえで悩みがあって研修会に参加しているのか。そのあたりの参加者の状況に応じて研修会の内容を柔軟に対応させていく必要がある。

② 研修会以降のその後の取り組みについて

研修会の講師を担当した WG のメンバーからは、研修会を受講した参加者のその後の取り組みについて気になっているとの意見がある。これまでも同様の議論はあったが、全国展開をしていく上で、研修会をきっかけにした先進事例の情報収集

を行っていく必要があるのではないか。この点を補っていくためには、各地域の都道府県レベルの研修会だけでなく、市町村あるいは校内研修といったより地域に密着したレベルでの研修会が今後は求められる。実際、今年度の研修会 D は地域に密着して研修会であり、担当者と講師はその後の取り組みについて情報交換することができていた。効果の検証には至っていないが、そういった先進事例を積み重ねていくことで教育現場への還元につながっていくと考えられる。加えて、先進事例に関する指導案なども研修会で紹介していければ、より教育現場への還元につながる。

③ 教材コンテンツの活用

研修会 f では、「教材コンテンツの活用の仕方」を研修内容に組み込むことが試みられた。比較的少人数の研修会であったこともあり、各参加者がコンテンツにアクセスし、それをもとに新たなアイデアを創出するアプローチが実現された。この例をもとに、次年度以降は教材コンテンツ WG と協働して、教材コンテンツの活用を組み込んだ研修会を検討していく必要がある。

④ 研修会に関する広報

次年度に向けては、研修会の認知度を高めることや、依頼などを受けやすくする必要がある。例えば、研修会に関するチラシなどがあると依頼があったときに活用しやすい。または、教材コンテンツ WG が作成している HP に研修会の活動報告などを掲載すると、それらをみた方が自分の地域での研修会や校内研修などで検討しやすくなる。

⑤ 教員養成段階へのアプローチ

今回のプロジェクトの趣旨は現職の教員へのアプローチである。一方で、今後の教育現場のことを考えると、教員養成段階から今回のプロジェクトに関する内容を伝えていく必要があるのではないか。例えば、定着研修会コアカリキュラムに則った内容を教員志望の大学生向けにも実践してみるなど、教員養成段階へのアプローチも検討が必要である。この点、WG 内で教員養成に関わっているメンバーは次年度から各担当授業などに組み込んでいくことも可能である。意見交換しながら進めていく。

4-3. 教材コンテンツ WG

1) 活動概要

令和4年度より、ガイドブック WG と広報 WG を統合した教材コンテンツ WG を立ち上げ、定着研修会の内容にリンクしたガイドブックの教材コンテンツ、および定着研修会とガイドブックに関連付けられた HP の教材コンテンツを作成し、実際に現場で活用することができるかを検証することを目的として活動しました。この目的を達成するために、内容に精通したメンバーを新たに加え、年間6回のWG委員会を開催し検討を重ねるとともに、定着研修会 WG との連携をさらに深めて活動に取り組みました。結果として、本プロジェクトの実行計画で示された「定着研修会に使用するガイドブック教材コンテンツ、HPの動画教材コンテンツを作成、拡充し、HPに公開する」とともに「ガイドブックをHPでPDF版として公表する」ことができました。また、令和4年度に開催されたすべての定着研修会でガイドブックとHPについて紹介することができ、HPの動画アクセス数も増加しました。チラシも作成し、関連する研修会や教育委員会を通じて学校関係者にも配布してもらい、周知活動にも取り組みました。一方で、「研修会に参加した参加者を対象にアンケート調査を実施する」ことについては目標数値を達成することができなかつたため、調査方法について検討する必要があります。次年度の課題として、定着研修会の中でガイドブックとHPを教材として使用してもらうこと、受講後にアンケート調査を実施することを進め、教材コンテンツの評価アンケートへの回答数を増加できるように定着研修会 WG と連携していく必要があります。教材コンテンツについては、アンケート結果に基づき「武道」を加えること、中学校版を作成すること、留意点版を作成することを中心に拡充する取り組みを継続します。さらに、定着研修会の実施や報告をHPで公開し、活動の啓発に努めます。

2) 活動目標

定着研修会にリンクしたガイドブックの教材コンテンツ、および研修会とガイドブックに関連づけられたHPの教材コンテンツを作成、拡充し、実際に現場で活動することができるかを検証することを目的としました。令和4年度は、障害種別（視覚障害・病弱/虚弱）を増やすこと、小学校を対象としたアダプテッドについて、ガイドブックとリンクさせた動画を作成し、HPで公開することを目標としました。また、ガイドブックとHPの評価測定についてWebアンケート調査を実施し、教材に対する評価と教材コンテンツへの要望

を明らかにすることを目標としました。

3) WG メンバー

本事業目標を達成するため、1名のWGメンバーを新たに加え、教材コンテンツと評価測定について検討を重ねました。メンバーは以下のとおりです。

天野 和彦（筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター 准教授）

松原 豊（こども教育宝仙大学 非常勤助教）

牧 舞美（兵庫県立阪神昆陽特別支援学校 教諭）

綿引 清勝（いわき短期大学幼児教育科 講師）

阿部 崇（東京家政大学こども学部子ども支援学科 准教授）

宗田 光博（埼玉県立特別支援学校大宮ろう学園 教諭）

重藤誠市郎（東海大学体育学部 研究補助職員）

中田ちずか（筑波大学附属視覚特別支援学校 教諭）

吉岡 尚美（東海大学体育学部 教授）

澤江 幸則（筑波大学体育系 准教授）

4) 活動内容

(1) 委員会の開催

第1回 令和4年7月29日（金） 10時00分～11時30分

第2回 令和4年9月28日（水） 18時00分～19時30分

第3回 令和4年12月19日（月） 17時30分～18時30分

第4回 令和4年2月6日（月） 17時00分～18時05分

第5回 令和5年2月13日（月）～2月17日（金） メール会議

第6回 令和5年3月14日（火） 17時00分～19時00分

(2) 教材コンテンツの作成と拡充、HPでの公開

令和4年度は対象学年を「小学生」、対象の障害種を「肢体不自由」、「聴覚障害」、「知的・発達障害」に「視覚障害」と「病弱・虚弱」を加えた5つとし、各障害種別に学習指導要領に則って種目を選択して教材を作成しました。結果、視覚障害で「走り幅跳び」、聴覚障害で「リズムダンス」・「短距離走」・「水泳」、知的・発達障害で「鬼ごっこ」・「バスケットボ

ール」・「マット運動」・「表現遊び」、肢体不自由で「キックベースボール」・「水遊び・水泳運動」・「ハードル走」・「ドッジボール」・「新体力テスト」、病弱・虚弱で「バスケットボール」・「ティーボール」、合計 15 個のコンテンツを追加することができました。ガイドブックは PDF 版で HP (<https://adaptedproject.jimdofree.com/>) に公開し、ダウンロードできるようにしました。また、上記の種目すべてについて、関連づけられたアダプテッド例の動画を作成して、デザインも新たに HP に公開しました。理論編についてもガイドブックと関連づけた 3 つのスライド動画「アダプテッドの必要性」・「アダプテッドの理論」・「アダプテッドのすすめ方」を作成して HP に公開しました。

(3) 教材コンテンツの評価測定

作成した教材コンテンツについて Web アンケート (<https://forms.office.com/r/mjR2K8eUV5>) を作成しました。アンケート調査への協力については、定着研修会の中で参加者に対しガイドブックと HP の紹介をしてもらい、閲覧した研修会参加者に任意で回答してもらうよう依頼しました。また、HP にも URL と QR コードを公開し、HP を閲覧した方に回答してもらえるよう工夫しました。さらに、チラシ (図 4-3-1) を作成して配布し、学校関係者にも周知するよう尽力しました。しかし、ガイドブックと HP の閲覧、ならびにアンケートへの回答は研修会終了後での任意であったことから、アンケートへの回答が得られない状況が続きました。

そこで、2023 年 2 月の研修会では、ガイドブックの内容を研修会で使用してもらうこと、HP の動画を研修会内で閲覧してもらう時間を設けること、研修会の受講後アンケートに教材コンテンツに関する質問項目を含めてもらうことを実践してもらいました。その結果、10 名の参加者から次ページのような結果と意見を得ることができました。



図 4-3-1

表 4-3-1. ガイドブックと HP に関する評価 (n=10)

ガイドブックに関する項目	とてもそう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	まったくそう思わない
Q1. ガイドブックに記載されている内容は理解しやすい	7	3	0	0
Q2. ガイドブックのデザインは見やすい	5	5	0	0
Q3. ガイドブックの内容についてさらに知識を深めたい	7	3	0	0
Q4. 障害のある児童・生徒の体育授業で困ったときに、このようなガイドブックを参考にしようと思う	7	3	0	0
Q5. 障害のある児童・生徒の体育授業で困っている他の教員に、このようなガイドブックを勧めようと思う	7	3	0	0
HPに関する項目	とてもそう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	まったくそう思わない
Q1. 調べたいコンテンツが見つけやすい	6	3	1	0
Q2. HPの内容で研修会で学んだことの理解が深まる	6	4	0	0
Q3. 動画で紹介されていたアダプテッド体育の実践の工夫例は参考になる	6	4	0	0
Q4. アダプテッド体育の工夫例を紹介した動画の説明はわかりやすい	5	5	0	0

表 4-3-2. インクルーシブ体育の実践について、過去に困ったり悩んだりしたこと、または今後実践する時に想定される困難さに関する自由記述一覧

指導者の共通認識 指導方針を共通理解して取り組む必要があると感じた
お互いのやる気の温度差が気になる
障害のある、なしに関わらず、楽しいと思える活動であったかどうか。
社会性や情動調整の難しさ、他者への指摘、勝ち負けへの固執からの周囲への攻撃的行動の表出等、周囲の児童生徒に不安を与えてしまうような児童生徒をどのように体育の集団に参加できるようにするかが想定される困難さです。
人的・物的環境の調整が課題になると思います。今ある環境でできる工夫をしていくことには取り組んでいきますが、子どもたちがより自由にやりたい運動をするためには、人もモノも整えていく必要があると思いました。 そのために、インクルーシブ体育の良さや意味などを発信していけたらと思います。
スポーツを行う中での目的が指導者や参加者によって違うことの是非や、最終的には別々になってしまうことへの不安、理解といった複雑な感覚
障害がない子ども障害がある子ども満足できる体育が成立しない、場面に遭遇した時
全員が楽しむという視点での課題の設定、難易度の設定

表 4-3-3. 「Challenge アダプテッド」のホームページやアダプテッド体育の例を紹介する動画に含めて欲しい内容（単元、種目、理論など）に関する自由記述一覧

武道
スキーの取り組み
現状ホームページをしっかりと拝見できていないため、まずはホームページからも勉強させていただきたいと思います。
武道について取り扱っていただけるとありがたいです。 知的障害特別支援学校では、安全上の理由から取り扱わないことが多いですが、相手に敬意を払うことなどの精神性は学ばせてあげたいと思います。

上記の結果から、ガイドブックと HP のコンテンツについては概ね高評価が得られていることがわかりました。HP については、「調べたいコンテンツを見つけやすい」に対して「あまりそう思わない」という回答があったことから、ガイドブックに各動画の QR コードを埋め込むことや QR コードの一覧表を作成するなどの工夫を検討します。また、自由記述の内容を来年度の教材コンテンツ作成の方向性に反映させていきます。特に WG 内でも「武道」のアダプテッドについて必要性が指摘されていることから、令和 5 年度のコンテンツに「武道」を含めることを検討していきます。

5) まとめと今後の課題

令和 4 年度は、WG の統合により教材コンテンツを大幅に拡充することができ、デザインも新たにした HP の動画へのアクセス数も増加しました。また、すべての定着研修会でガイドブックと HP を紹介してもらうことや、教育委員会を通じて学校関係者にもチラシをデータで配布してもらうことができ、広報活動としても一定の効果は得られたと考えます。しかし、評価測定に関しては計画していた数値を達成することができず、課題が残りました。

そこで、令和 5 年度に取り組む課題として、①すべての定着研修会でガイドブックと HP の動画を教材として使用してもらうこと、②研修会の受講後アンケートに教材コンテンツに関する質問項目を含めてもらうことを提案し、評価測定を進めます。その目標を達成するために、③より教材にアクセスしやすいよう動画の QR コードを作成すること、④現場教員の困り感について正確な情報が得られるようアンケート項目を微修正することに取り組みます。また、教材コンテンツの内容について、⑤「武道」の教材を可能な障害種別で作成してもらうこと、⑥「中学校版」の教材を可能な障害種で作成すること、③「留意点版」の教材を可能な障害種で作成してもらうことを継続検討しながら進めていきます。さらに、⑦定着研修会の実施報告を HP で公開し、活動の啓発に努めます。

5. 今後の展望

1. 最終目標

これまでと変更なく、2030年に、地域の通常の小中高等学校の少なくとも体育授業を担当している教員のうち、9割が障害のある子どもを受け持つことに対して抵抗感を感じず、8割が障害のある子どもに指導することに不安を感じないで、7割が「アダプテッド」の用語を聞いたことがあるなかで、6割が、アダプテッドの視点をもって指導できることを目指します。

2. 期間目標と成果

■ 1クール（2019年度-21年度）

◆期間目標：アダプテッド定着のためのコアフレームづくり

◆期間成果：

- ◎ 「定着研修会コアカリキュラム」の試案
- ◎ 定着研修会のプロトタイプおよびさまざまな研修会スタイルの実証
- ◎ 研修会用ガイドブックの作成と公開
- ◎ 現場志向型のコンテンツ構造をもったHPの構築

■ 2クール（2022年度-24年度）

◆期間目標：全国20都市で年間1回以上の研修会実施

◇2022年度成果

- ◎ 目標としていた全国6箇所において定着研修会を実施し、地域条件における実施上の問題と課題を検証したところ、その地域状況をよく把握している講師が担当することが望ましいことが分かった。
- ◎ 研修会内容にリンクしたガイドブックとHPの教材コンテンツの充実を諮り、研修会等でチラシを配布したり、ウェブ上にアンケートを試みたりしたところ回答がなく、これらの方法では評価測定が難しいことが分かった。

3. 2023 年度目標

- ◎ 全国 12 個所において定着研修会を実施、地域を熟知した講師の選出方法および養成方法について検討する。
- ◎ ガイドブックおよびHP が実際に現場で活用できるかを、研修会のなかにガイドブックやHP を活用するセッションを設けて実施する等して、評価測定を行う。また研修会案内と報告を掲載し、定着研修会の参加を促進する。
- ◎ 自走化に向けて、アダプテッドに関する公共事業や活動との連携を行い、アダプテッド推進ネットワークを構築し、年度末にキックオフフォーラムを開催する。これを基盤に組織化の足がかりとする。

6. 附録資料

ガイドブック

本報告書は、スポーツ庁の委託事業として、筑波大学が実施した令和4年度「障害者スポーツ推進プロジェクト（地域の課題に対応した障害者スポーツの実施環境の整備事業）」の成果を取りまとめたものです。

従って、本報告書の複製、転載、引用等にはスポーツ庁の承認手続きが必要です。

障害のある子どもがいる体育授業のためのガイドブック

アダプテッドをやってみよう！

～すべての子どもが“いきいきと輝く”体育活動をめざして～

障害のある子どもがいる体育授業のためのガイドブック

アダプテッドをやってみよう！

～すべての子どもが“いきいきと輝く”体育活動をめざして～

目次

理論編

- ・ アダプテッドの必要性・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- ・ アダプテッドのすすめ方・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

実践編

- ・ 視覚障害・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
- ・ 聴覚障害・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
- ・ 知的・発達障害・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23
- ・ 肢体不自由・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 35
- ・ 病弱・虚弱・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 49

障害のある子どもがいる体育授業のためのガイドブック

アダプテッドをやってみよう！

～すべての子どもが“いきいきと輝く”体育活動をめざして～

理論編

アダプテッドについての情報をお伝えします！

アダプテッドの必要性

障害児体育の現状と課題からその必要性について

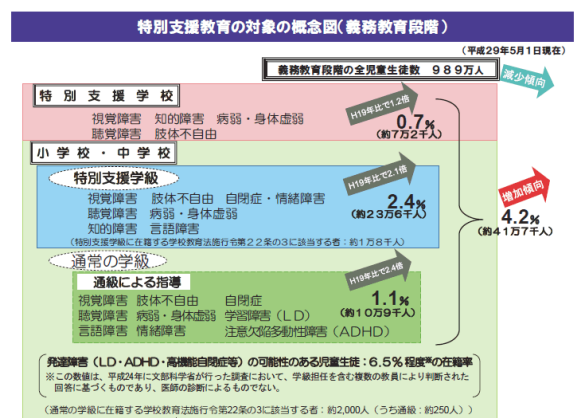
1) スポーツをすることは人権

- 障害のある人がスポーツをすることは当たり前である(障害者権利条約第30条)。
- スポーツとは、競技種目だけでなく、遊戯としての身体活動、ビジネスで使われるスポーツなど様々である。
- 身体を動かすという**人間の本源的な欲求に応え、精神的充足**をもたらすものである(スポーツ庁, 第二期スポーツ基本計画)。
- スポーツは、競技や勝利することだけの価値だけではない。友情、尊厳に加え、**勇気や決断、鼓舞、平等など、多様な価値**がある。

2) 障害のある人のためのインクルーシブ教育

障害のある者が教育制度一般から排除されないことが望まれ、さまざまな学びの場で、障害のある児童生徒が教育を受けている。

特別支援学級の在籍者数は毎年平均 7.6%増加し、小学校では「特別支援教育制度」の影響を受け、さまざまな体育の授業形態が存在している。中学校では特別支援学級を中心、高等学校では通常学級のみで展開される傾向がある。



資料: 文部科学省

図1 特別支援教育を必要とする子どもたち

3) 障害のある子どもたちの声

- 体育は「見学するもの」?
- ぼくが入ると嫌な顔をされる・いつも「下手と言われる」
→ スポーツ価値の偏重 (能力・勝利至上主義だけでない**多様な価値**)
- だって、そこには健常者がいるから・理想よ! 家族の気持ちも考えて
→ 相互理解の不足 (**一緒に**いることが前提である状態)

4) インクルーシブ体育を実践するためには?

多様な価値の理解と共有 (多様性: Diversity) と **一緒に**授業を行う状態 (包摂: Inclusion) をつないでいかなければならない。その両者をつなぐ観点や技術のひとつが**アダプテッド**である。

5) アダプテッドとは

国際的には、障害のある子どもの体育の充実を図るために、その特性に応じた工夫などの方法論や理論について、学際的に議論する領域として、**Adapted Physical Activity and Education** があり、国際学会 (IFAPA) はもちろんのこと、欧米大学のいくつかにおいて、それを標榜する学科や研究室がある。アメリカにはそれに関する資格もある。日本では筑波大学や日本福祉大学に研究室がある。

障害者スポーツがアダプテッドスポーツというわけではなく、関連する用語を整理すると図2のようになる(諸説あり)。障害者を含め、身体活動をするうえで**何らかのニーズのある人すべて**が対象である。そして重要なのは、“**その人に合わせる**”ことを真骨頂とした方法論である。

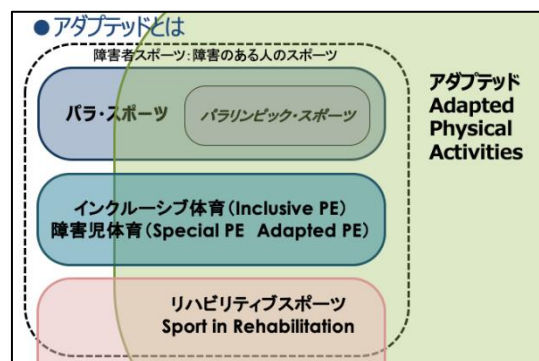


図2 アダプテッドの種類

6) アダプテッド理論 (エコロジカルモデル)

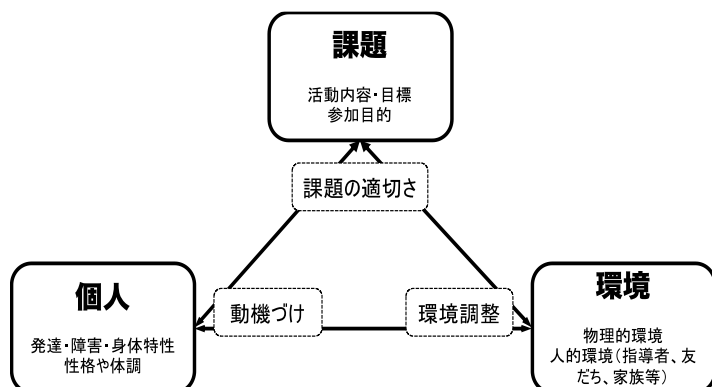


図3 エコロジカルモデル

単に“その人に合わせる”ことをしていくと、結果的に身体活動のもつ楽しさを享受できなくなることがある。そのためにも、個人的特性だけでなく、課題や環境に合わせて、課題を適正化し、環境調整し、動機づけしていくことが望まれる(図3)。

7) アダプテッドと合理的配慮

合理的配慮とは、障害のある人が障害のない人と平等に人権を享受し行使できるよう、一人ひとりの特徴や場面に応じて発生する**喪失された部分**を補い、**困っている部分**を取り除くための個別の調整や変更等のことをさす。アダプテッドは、合理的配慮の一部であるが、単に喪失・困難さの部分を見るのではなく、**残された部分を捉える**ことで、本人や活動そのものの**可能性を引き出す**ことに意味をもたせている。

□もっと学びたい人へ□

参考ホームページ

アダプテッド・スポーツの由来 (JASAPE 学会 HP 内)

<http://www.adapted-sp.net/yan-jiu-qing-bao/adaputeddo-supotsuno-you-lai>



アダプテッドのすすめ方

ステップ1 こんな子いませんか？

まずは体育授業のなかで障害のある子どもが、どんなことに困っているかを把握しましょう。

障害のある子どものなかには、私達がイメージすることのできない困惑や不安を感じていることがあります。例えば、先生から示された内容が理解できなかったり、友だちと一緒に動くことが難しかったり、ボールが怖かったりと、他の子はわかっていたり、できたりすることが極端にできないことがあります。

ここでは、それらの困りごとを単元や課題ごとに、これまでの経験のなかで知ることができた子どもたちの事例を紹介していきたいと思います。



ステップ2 バリアはなに？

体育授業のなかでみられる障害のある子どもの困りごとのバリアにはいろいろとあると思いますが、ここでは大きく、「もの」と「人」、「ルール」の3つにわけってみました。

☆もの：体育で使う道具や授業環境が、障害のある子どもにとって使いにくかったり、アクセスしにくかったりするようなことです。

例：サッカーの授業で、肢体不自由のある子どもが車いすに乗っているため、授業に参加できない。

☆人：友だちとうまく教え合いや支え合いができなかったり、支援員や学習ボラ、協力教員の配置ができなかったり、指導者間の連携がとれなかったりするようなことです。

例：ソフトボールのゲームで、視覚障害のある子どもが孤立していて、試合の進行状況がわからない。

☆ルール：授業のなかで、達成しなければならない課題や、守らなければならない指示などがわからなかったり、難しすぎたり（逆に簡単すぎたり）するようなことです。

例：準備運動の時間、知的障害のある子どもが、他の子どもと同様に指示どおり、体操の動きができていない。

ステップ3 アダプテッドのポイント？

バリアが何かがわかれば、それを**変更**したり、**修正**したり、何かを**加えたり**、**減らす**ことで解決できるかもしれません。それがアダプテッドです。

☆**もの**：体育で使う道具や授業環境を、障害のある子どもにとって使いやすいものやアクセスしやすいものを用意してみる。

例：サッカーの授業で、肢体不自由のある子どもが車いすに乗っていてもできるボールとして、Gボールを用意する。

☆**人**：友だちとうまく教え合いや支え合いができるように、友だちの障害についてクラスで学びあったり、支援員や学習ボラ、協力教員を配置し、指導者間の連携がとれたりするようにする。

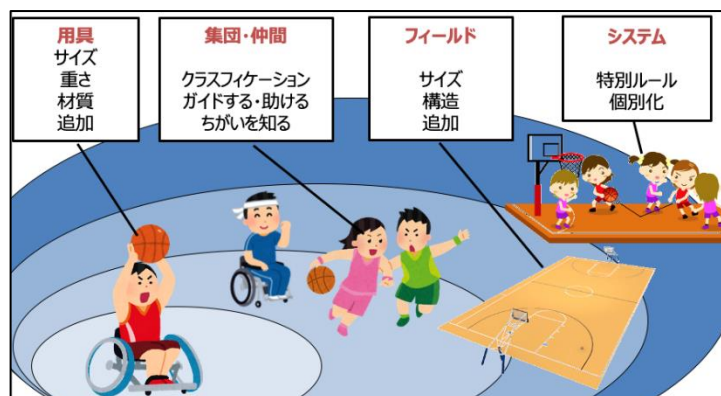
例：ソフトボールのゲームで、視覚障害ある子どもに、友だちや他の指導者が、試合の進行状況を実況中継する。

☆**ルール**：授業のなかで、達成しなければならない課題や、守らなければならない指示を、子どもの特性に応じて、わかりやすく、必要に応じて課題内容を変更したり、追加で情報を加えたりする。

例：準備運動の時間、知的障害のある子どもに、絵カードを使って指示したり、手の伸ばし方を変更したりする。

アダプテッドするためのヒント

何を**変更**したり、**修正**したり、何を**加えたり**、**減らしたり**するとよいか迷ったら、以下のものを参考に、アダプテッドしてみてください。



□もっと学びたい人へ□

参考図書

教養としてのアダプテッド体育・スポーツ学 齊藤まゆみ編著 大修館書店
<https://www.taishukan.co.jp/book/b372445.html>



実践編

アップデートについての情報をお伝えします！

球技:バレーボール

ステップ1 こんな子いませんか？

- ・ ボールを追うことができない。
- ・ 周りの人とぶつかってしまう。
- ・ 本人が状況を把握できないために、動けない。
- ・ ボールが当たった音で反応する。

ステップ2 バリアはなに？

「もの」のバリア

- ・ ボールがすぐに落ちてしまう

「ルール」のバリア

- ・ ボールを落としてはいけない

「人」のバリア

- ・ 加配で人を増やせない

ステップ3 アダプテッドのポイント

☆「もの」のアダプテッド

- ・ ボールを風船に変えて、中に鈴を入れてみよう。

☆「ルール」のアダプテッド

- ・ ネットの下を転がすルールに変えてみよう。
- ・ コートの大きさを調整してみよう。
- ・ ポジション(スペース)やプレーの役割分担を明確にしてみよう。
- ・ ボールを持っていても良いなど、触れる回数を増やすなど、使える感覚が活かせるようにしてみよう。

☆「人」のアダプテッド

- ・ 加配がなくても活動できるように、モノやルールをアダプテッドしてみよう。
- ・ 必要な動きや指示に対する言葉を、丁寧に共通理解をしておこう。

Tweet

上がダメなら下がある。

□もっと学びたい人へ□

参考ホームページ

☆明日の体育で何をしよう？（アダプテッド定着プロジェクトHP内）

<https://adaptedproject.jimdofree.com/明日の体育で何をしよう/>

（最終的には、上記種目にあった内容のHPに飛ばしますが、現在は総集編的な内容のHPです）



球技：サッカー

ステップ1 こんな子いませんか？

- ・ ボールを追いかけることができない。
- ・ 攻める方向を間違ってしまう。
- ・ 怖がってやりたがらない。

ステップ2 バリアはなに？

「もの」のバリア

- ・ ボールが転がりすぎてしまう
- ・ ボールが小さい

「ルール」のバリア

- ・ コートが広い
- ・ 人やボールの移動距離が大きい

「人」のバリア

個人の能力差が大きい

ステップ3 アダプテッドのポイント

☆「もの」のアダプテッド

- ・ 転がると音が鳴るボールに変えてみよう。

☆「ルール」のアダプテッド

- ・ 「相手に近づき過ぎてはいけない」など、個人の技術やペースで活動に取り組めるようにルールを変えてみよう。
- ・ ポジション(スペース)やプレーの役割分担を明確にしてみよう。

☆「人」のアダプテッド

- ・ 攻めるゴールの後ろにコーチを配置して、どこへ攻めるかガイドをつけてみよう。
- ・ 必要な動きや指示に対する言葉を、丁寧に共通理解をしておこう。

Tweet

プレー中に起きたことのフィードバックは
積極的に行っていこう。

□もっと学びたい人へ□

参考ホームページ

☆明日の体育で何をしよう？(アダプテッド定着プロジェクトHP内)

<https://adaptedproject.jimdofree.com/明日の体育で何をしよう/>

(最終的には、上記種目にあった内容のHPに飛ばしますが、現在は総集編的な内容のHPです)



陸上運動：走り幅跳び

ステップ1 こんな子いませんか？

- ・ 踏み切り板が見えない・見えにくい。
- ・ まっすぐに走れず、助走路から外れてしまう。
- ・ 怖くて踏み切ってジャンプできない。

ステップ2 バリアはなに？

「もの」のバリア

- ・ 踏み切り板が見つらい。
- ・ 助走路が狭い。

「ルール」のバリア

- ・ 踏み切り板を超えてしまう。

「人」のバリア

- ・ 砂場にうまく着地できないかもしれない恐怖心。

ステップ3 アダプテッドのポイント

☆「もの」のアダプテッド

- ・ 踏み切り板を見やすい色に変えてみよう。
- ・ 助走路の真ん中にラインを引いてみよう。
- ・ 走り始める場所に判りやすいマーカーを置いてみよう。

☆「ルール」のアダプテッド

- ・ 踏み切り板ではなく、砂場から 1m の範囲のどの場所から踏み切ってもよいことにしてみよう。
- ・ 助走の距離を少しずつ延ばしていこう。まずは一歩から。

☆「人」のアダプテッド

- ・ 伴走紐を使ってガイドと一緒に跳んでみよう。
- ・ 跳ぶ前方から声や拍手で合図を出してみよう。

Tweet

大丈夫!きっと跳べる!!

□もっと学びたい人へ□

参考ホームページ

☆明日の体育で何をしよう? (アダプテッド定着プロジェクトHP内)

<https://adaptedproject.jimdofree.com/明日の体育で何をしよう/>

(最終的には、上記種目にあった内容のHPに飛ばしますが、現在は総集編的な内容のHPです)



球技：バレーボール

ステップ1 こんな子いませんか？

- ・ ホイッスル・ボールを打った音がわからない。
- ・ 作戦会議で友達の話がわからない。

ステップ2 バリアはなに？

「もの」のバリア

- ・ ホイッスルの高い音がわからない

「ルール」のバリア

- ・ ゲームの開始・終了の合図が音による情報しかない

「人」のバリア

- ・ 音声でのコミュニケーションが多い

ステップ3 アダプテッドのポイント

☆「もの」のアダプテッド

- ・ ホイッスルだけでなく、フラッグや太鼓を使ってみよう。

☆「ルール」のアダプテッド

- ・ サーブを打つ人(ボールの投げ入れ等)は必ず手を挙げ、レシーブ側のみんなも手を挙げたのを確認してから打とう。

☆「人」のアダプテッド

- ・ 共通のサインを使ってみよう。
- ・ 作戦タイムの際は、ホワイトボードやタブレット端末を使って視覚的に分かりやすいようにしよう。

Tweet

活動が見てわかるように工夫してみよう。

□もっと学びたい人へ□

参考ホームページ

☆明日の体育で何をしよう？(アダプテッド定着プロジェクトHP内)

<https://adaptedproject.jimdoofree.com/明日の体育で何をしよう/>

(最終的には、上記種目にあった内容のHPに飛ばしますが、現在は総集編的な内容のHPです)



球技：サッカー

ステップ1 こんな子いませんか？

- ・ ホイッスルが鳴ってもわからない。
- ・ チームメイトの声が届かない。

ステップ2 バリアはなに？

「もの」のバリア

- ・ ホイッスルの音が聞こえない

「ルール」のバリア

- ・ ゲームや授業の流れの中断が分かりにくい

「人」のバリア

- ・ 人と人の距離が遠く、声が聞き取りにくい

ステップ3 アダプテッドのポイント

☆「もの」のアダプテッド

- ・ ホイッスルだけでなく、フラッグや太鼓を使ってみよう。

☆「ルール」のアダプテッド

- ・ ゲームの中断や教員からの指示があるときは、チームのみんなで共通の行動を取ろう（例：帽子を取る、座る等）。
- ・ ボールを呼ぶときは声だけでなく、ジェスチャーもつけよう。
- ・ フリーの仲間を教えたい時は、ビブスの数字を手で表そう。

☆「人」のアダプテッド

- ・ 共通のサインやジェスチャーをまじえることで、コミュニケーションが取れるようにしてみよう。

Tweet

「○○だからできない」ではなく
「○○ならできる」という視点が大切!!

□もっと学びたい人へ□

参考ホームページ

☆明日の体育で何をしよう？（アダプテッド定着プロジェクトHP内）

<https://adaptedproject.jimdofree.com/明日の体育で何をしよう/>

（最終的には、上記種目にあった内容のHPに飛ばしますが、現在は総集編的な内容のHPです）



表現運動:リズムダンス

ステップ1 こんな子いませんか？

- ・ リズムに合わせて踊ることが難しい。
- ・ 振付をなかなか覚えられない。

ステップ2 バリアはなに？

「もの」のバリア

- ・ スピーカーからの音が聞こえない

「ルール」のバリア

- ・ みんなと振付を合せないといけない

「人」のバリア

- ・ 音声での指示が多い

ステップ3 アダプテッドのポイント

☆「もの」のアダプテッド

- ・ 補聴援助システム(ワイヤレスマイク)を活用し、聞こえやすい環境を整える。

☆「ルール」のアダプテッド

- ・ 太鼓等を使って、リズムを取る。
- ・ 見本となるような児童が見えやすい位置で踊る。

☆「人」のアダプテッド

- ・ 音声での指示だけでなく、指でカウントを示すことでリズムを取る。
- ・ 振付の内容をカウントと動き方を併記した表で確認できるようにする。

Tweet

見えないものを目に見せて

□もっと学びたい人へ□

参考ホームページ

☆明日の体育で何をしよう？（アダプテッド定着プロジェクトHP内）

<https://adaptedproject.jimdofree.com/明日の体育で何をしよう/>

（最終的には、上記種目にあった内容のHPに飛ばしますが、現在は総集編的な内容のHPです）



走の運動・短距離走

ステップ1 こんな子いませんか？

- ・ スタートの合図が分からない。
- ・ 勢いよくスタートを切ることが難しい。

ステップ2 バリアはなに？

「もの」のバリア

- ・ ホイッスルや雷管による合図が聞こえない

「ルール」のバリア

- ・ 良いスタートのために、下方を見る必要がある

「人」のバリア

- ・ 音での指示が多い

ステップ3 アダプテッドのポイント

☆「もの」のアダプテッド

- ・ 手旗を使用し、視覚的にスタートの合図が分かるようにする。

☆「ルール」のアダプテッド

- ・ 走者が下方を見ているも見える位置で、手旗を使って合図をする。
- ・ 色々な形での走運動やスタートの練習では、音での合図と同時に友達に肩や背中を叩いてもらう。

☆「人」のアダプテッド

- ・ 音声や音（ホイッスル等）だけの指示ではなく、視覚的に分かる工夫（手旗・手を打つ等）をする。

Tweet

ちょっとした工夫でパフォーマンス UP!

□もっと学びたい人へ□

参考ホームページ

☆明日の体育で何をしよう？（アダプテッド定着プロジェクトHP内）

<https://adaptedproject.jimdofree.com/明日の体育で何をしよう/>

（最終的には、上記種目にあった内容のHPに飛ばしますが、現在は総集編的な内容のHPです）



水遊び・水泳運動

ステップ1 こんな子いませんか？

- ・ 普段は音声での指示が分かるのに、水泳の授業になると聞き取りが難しい。
- ・ 教員の指示や授業のポイントが理解できない。

ステップ2 バリアはなに？

「もの」のバリア

補聴機器を外すため、マイクでの指示、笛の合図が聞こえない

「人」のバリア

・ 音声での指示が多い

ステップ3 アダプテッドのポイント

☆「もの」のアダプテッド

- ・ 音声や音（ホイッスル等）だけの指示ではなく、視覚的に分かる工夫（手旗・手を打つ等）をする。

☆「人」のアダプテッド

- ・ 本時の流れや実技のポイントをいつでも確認できるように掲示する。
- ・ 安全管理、情報保障からバディシステムを取り入れる。

※授業終了後は、補聴機器の管理の面から髪の毛・耳周辺の水分をしっかりと拭き取らせる。

Tweet

見えないものを目に見せて

□もっと学びたい人へ□

参考ホームページ

☆明日の体育で何をしよう？（アダプテッド定着プロジェクトHP内）

<https://adaptedproject.jimdofree.com/明日の体育で何をしよう/>

（最終的には、上記種目にあった内容のHPに飛ばしますが、現在は総集編的な内容のHPです）



球技：バレーボール

ステップ1 こんな子いませんか？

- ・ ボールを怖がってしまう
- ・ ボールを打つことが難しい
- ・ ミスして友達に責められるのが嫌だからやりたくない

ステップ2 バリアはなに？

「もの」のバリア

- ・ ボールの大きさや硬さが合わない

「ルール」のバリア

- ・ 自分の守備範囲がわからない

「人」のバリア

- ・ 自分のミスでチームの足を引っ張ってしまうのが心配

ステップ3 アダプテッドのポイント

☆「もの」のアダプテッド

- ・ ボールをレクリエーションバレーボール、風船、ビーチボールなどに変えてみよう。

☆「ルール」のアダプテッド

- ・ 個人のプレーするエリアを固定したり、座ってプレーしたりするなど、動きやスペースを調整してみよう。
- ・ ワンバウンドでもよいルールにして、少し余裕をもってボールへの対応ができるようにしてみよう。

☆「人」のアダプテッド

- ・ サーブは2本まで打てるようにしたり、自分の好きなどころから打てるようにしたりするなど、本人の技能に応じてできることを工夫してみよう。

Tweet

その競技本来の面白さは残しつつ、思い切って
ルールや活動方法を変更すると、新しい発見がある。

□もっと学びたい人へ□

参考ホームページ

☆明日の体育で何をしよう？（アダプテッド定着プロジェクトHP内）

<https://adaptedproject.jimdofree.com/明日の体育で何をしよう/>

（最終的には、上記種目にあった内容のHPに飛ばしますが、現在は総集編的な内容のHPです）



球技：サッカー

ステップ1 こんな子いませんか？

- ・ ボールを上手に蹴ることができない。
- ・ 途中で飽きてしまう。
- ・ 攻守の切り替えや攻める方向の理解が難しい。

ステップ2 バリアはなに？

「もの」のバリア

- ・ ボールが小さい
- ・ ボールが転がりすぎる

「ルール」のバリア

- ・ ゲームの時間が長い
- ・ コートが広い

「人」のバリア

- ・ チームメイトとコミュニケーションがとりづらい

ステップ3 アダプテッドのポイント

☆「もの」のアダプテッド

- ・ サッカーボールをバランスボールに変えて大きくしてみよう。
- ・ ボールのエアを抜いて、弾みすぎないようにしてみよう。

☆「ルール」のアダプテッド

- ・ コートを小さくしてみよう。
- ・ ゲームの時間を短くしてみよう。
- ・ ボールやゴールの数を増やしてみよう。

☆「人」のアダプテッド

- ・ ペアで動いて、仲間の力を借りる工夫をしてみよう。

Tweet

「こうあるべきだという固定観念を見直してみよう」

□もっと学びたい人へ□

参考ホームページ

☆明日の体育で何をしよう？（アダプテッド定着プロジェクトHP内）

<https://adaptedproject.jimdoofree.com/明日の体育で何をしよう/>

（最終的には、上記種目にあった内容のHPに飛ばしますが、現在は総集編的な内容のHPです）



体づくりの運動遊び: 鬼ごっこ

ステップ1 こんな子いませんか？

- ・ 誰が鬼かわからない。
- ・ 体にタッチされたくない。
- ・ 鬼になりたくない。
- ・ いつも鬼になる。

ステップ2 バリアはなに？

「もの」のバリア

- ・ 鬼がわかりづらい

「ルール」のバリア

- ・ 鬼は交代する
- ・ 体に触れることにより鬼が交代する

「人」のバリア

- ・ 人数が多い
- ・ 足の遅い子が狙われる

ステップ3 アダプテッドのポイント

☆「もの」のアダプテッド

- ・ 鬼がわかるように、鬼はビブスを着たり帽子の色を変えたりしてみよう。

☆「ルール」のアダプテッド

- ・ 鬼に捕まって悔しい時や怒りたい時には「悔しいけど、次は頑張ろう」等のおまじないを唱えてみよう。
- ・ みんなしっぽを付けて、鬼はしっぽを取るルールにしてみよう。

☆「人」のアダプテッド

- ・ グループをいくつか分けて、少人数から始めよう。
- ・ 最初は教員が鬼をしてみよう。
- ・ 逃げるのが苦手な子には慣れるまでタッチしないようにしてみよう。
- ・ タッチされても鬼にならないセーフゾーンをつくってみよう。

Tweet

まずは走り回る楽しさを知ろう。

□もっと学びたい人へ□

参考ホームページ

☆明日の体育で何をしよう？（アダプテッド定着プロジェクトHP内）

<https://adaptedproject.jimdofree.com/明日の体育で何をしよう/>

（最終的には、上記種目にあった内容のHPに飛ばしますが、現在は総集編的な内容のHPです）



球技：バスケットボール

ステップ1 こんな子いませんか？

- ・ ボールをうまく投げたり、捕ったりできない。
- ・ ボールを持つ機会が少ない、持っても固まってしまう。
- ・ チームプレーに参加することが難しい。

ステップ2 バリアはなに？

「もの」のバリア

- ・ ボールが重い
- ・ ゴールが高い

「ルール」のバリア

- ・ ボールを持って移動できない
- ・ コート上に人が多い

「人」のバリア

- ・ 上手な人がボールを持つ時間が長い

ステップ3 アダプテッドのポイント

☆「もの」のアダプテッド

- ・ ボールをドッチボールなど軽いものに変えてみよう。
- ・ フラフープなどを使って、低いゴールを設置してみよう。

☆「ルール」のアダプテッド

- ・ ボールを持っても10歩まで動いていいなど、移動できるようにしてみよう。
- ・ コートを区切って少人数のプレーにしたり、ディフェンスが入れるエリアを制限したりしてみよう。
- ・ ゴールに当たれば1点、シュートが入れば2点など、配点を工夫してみよう。

☆「人」のアダプテッド

- ・ ドリブル無しのパスゲーム、全員にパスが回れば点数アップなど、パスを出したくなるような工夫をしてみよう。

Tweet

気づいたら参加できているような
仕掛けをしてみよう!

□もっと学びたい人へ□

参考ホームページ

☆明日の体育で何をしよう？（アダプテッド定着プロジェクトHP内）

<https://adaptedproject.jimdofree.com/明日の体育で何をしよう/>

（最終的には、上記種目にあった内容のHPに飛ばしますが、現在は総集編的な内容のHPです）



表現リズム遊び：表現遊び

ステップ1 こんな子いませんか？

- ・ 動きの模倣が苦手
- ・ 全体的な動きの把握が苦手
- ・ 動きが小さい
- ・ 動きのイメージがつかめない

ステップ2 バリアはなに？

「もの」のバリア

- ・ 「もの」がないためにかえって難しい

「ルール」のバリア

- ・ 最初に全体像を示されるとかえってわかりづらい

「人」のバリア

- ・ 動きのイメージが持てない

ステップ3 アダプテッドのポイント

☆「もの」のアダプテッド

- ・ あえて「もの（道具）」を操作して、身体の動かし方を明確にしましょう。

☆「ルール」のアダプテッド

- ・ ポイントとなる動きはイラストや写真等を見せましょう。
- ・ 動きを区切り、1つずつ動作とリズムを確かめながら順番に積み上げていきましょう。

☆「人」のアダプテッド

- ・ 手足の動きとリズムを歌のように唱えさせてみましょう。
- ・ 擬音語や擬態語を使用して動きを伝えてみましょう。
- ・ 「忍者のように」、戦隊ヒーロー「へーんしん」等の対象児の好きな言葉で動きを表現してみましょう。

Tweet

身体表現も個性を尊重しましょう。

□もっと学びたい人へ□

参考ホームページ

☆明日の体育で何をしよう？（アダプテッド定着プロジェクトHP内）

<https://adaptedproject.jimdoofree.com/明日の体育で何をしよう/>

（最終的には、上記種目にあつた内容のHPに飛ばしますが、現在は総集編的な内容のHPです）



器械運動：マット運動

ステップ1 こんな子いませんか？

- ・ 真っ直ぐに回れず、左右にゆがむ。
- ・ 手本と同じ動きがうまくできない。
- ・ 達成感を感じる場面が少ない。

ステップ2 バリアはなに？

「もの」のバリア

- ・ マットに工夫がされていない

「ルール」のバリア

- ・ みんなで同じ技の練習
- ・ 技が完成しないと達成感が得られない

「人」のバリア

- ・ 技のポイントが多くてわからない

ステップ3 アダプテッドのポイント

☆「もの」のアダプテッド

- ・ マットに傾斜をつけて回転しやすくしてみよう。
- ・ 手や目線の位置などに、わかりやすい目印をつけてみよう。

☆「ルール」のアダプテッド

- ・ いくつかの技から自分に合ったものを選んで練習をしたり、技の段階毎に分かれて練習をしたりする環境を設定してみよう。
- ・ ひとつの技を段階に分け、完成しなくても達成感を味わえるようにしてみよう。

☆「人」のアダプテッド

- ・ 技のポイントを絞り、スモールステップで練習をしてみよう。
- ・ ポイントを写真やイラストでわかりやすく説明してみよう。

Tweet

小さな達成感を積み重ねられる
仕掛けをしてみよう!

□もっと学びたい人へ□

参考ホームページ

☆明日の体育で何をしよう？（アダプテッド定着プロジェクトHP内）

<https://adaptedproject.jimdofree.com/明日の体育で何をしよう/>

（最終的には、上記種目にあった内容のHPに飛ばしますが、現在は総集編的な内容のHPです）



球技:バレーボール

ステップ1 こんな子いませんか？

- ・ 浮いているボールを捉えることが難しい。
- ・ ボールを怖がったり、すぐに落としたりしてしまう。
- ・ ジャンプや立位でのプレーが難しい。

ステップ2 バリアはなに？

「もの」のバリア

- ・ ボールの重さや硬さ
- ・ ネットの高さやコートの広さ

「ルール」のバリア

- ・ パスの回数やボールを落としてはいけないルール

「人」のバリア

- ・ 身体機能の違いや活動に対する心理的な安心感

ステップ3 アダプテッドのポイント

☆「もの」のアダプテッド

- ・ 風船やソフトバレーボールなどの、軽い素材にボールを変えてみよう。
- ・ ネットの高さやコートを広さを変えてみよう。

☆「ルール」のアダプテッド

- ・ パスの回数やサービスの方法の変更、ボールのキャッチを認めるなど、ルールを参加者に応じて調整してみよう。

☆「人」のアダプテッド

- ・ 皆で座って(コート車いす、椅子など)プレーしてみよう。
- ・ 人数の調整やポジションに応じた役割をつけてみよう。

Tweet

楽しんで条件を工夫すれば、みんなちがって、みんないい

□もっと学びたい人へ□

参考ホームページ

☆明日の体育で何をしよう？(アダプテッド定着プロジェクトHP内)

<https://adaptedproject.jimdoofree.com/明日の体育で何をしよう/>

(最終的には、上記種目にあった内容のHPに飛ばしますが、現在は総集編的な内容のHPです)



球技：サッカー

ステップ1 こんな子いませんか？

- ・ ボールを蹴ることが難しい。
- ・ 走ることが難しい。
- ・ 車椅子に乗っている。

ステップ2 バリアはなに？

「もの」のバリア

- ・ ボールの大きさや硬さ
- ・ コートの広さ

「ルール」のバリア

- ・ 足でボール操作をしなければならない

「人」のバリア

- ・ 身体機能の個人差や活動に対する意欲、恐怖心

ステップ3 アダプテッドのポイント

☆「もの」のアダプテッド

- ・ 車椅子のフットガードや杖（クラッチ）などの補助的な方法を活用してみよう。
- ・ ボールの大きさや素材を変えてみよう。

☆「ルール」のアダプテッド

- ・ 個人の技術やペースで活動ができるようにルールを工夫してみよう。
- ・ 得点の配点や攻守の切り替えなど、参加者の実態に合わせて調整してみよう。

☆「人」のアダプテッド

- ・ 皆で車椅子や杖（クラッチ）を使ってみよう。
- ・ 全員がコートに座って、自分が担当するエリアをわけてみよう。

Tweet

参加者の実態に合わせて「サッカー」を創ってみよう。

□もっと学びたい人へ□

参考ホームページ

☆明日の体育で何をしよう？（アダプテッド定着プロジェクトHP内）

<https://adaptedproject.jimdofree.com/明日の体育で何をしよう/>

（最終的には、上記種目にあった内容のHPに飛ばしますが、現在は総集編的な内容のHPです）



小学校中学年ゲーム:キックベースボール

ステップ1 こんな子いませんか？

- ・ 車いすを使用しているためボールを蹴ることができない
- ・ ボールを打ったあとの走塁に時間がかかる
- ・ 転がるボールに対してキャッチすることができない
- ・ 硬いボールはこわい

ステップ2 バリアはなに？

「もの」のバリア

- ・ 硬いボール
- ・ 車いすの走塁は遅い

「ルール」のバリア

- ・ 車いすでプレイすることが困難

「人」のバリア

- ・ 介助者の支援方法がわからない

ステップ3 アダプテッドのポイント

☆「もの」のアダプテッド

- ・ ラケット(テニスやホッケーなど)を使ってボールを打つ。
- ・ 軽くて柔らかいボールを使用する。

☆「ルール」のアダプテッド

- ・ 打ちやすいように前方から転がすかボールをベース上において打ってもよい。
- ・ 走塁ベースと守備ベースを別にして走塁ベースは距離を短くする。
- ・ 守備側の児童は打ったボールを捕った後20 数えてから 1 塁に投げる。
- ・ 守備をする時は車いすにボールが当たればアウトになる。

☆「人」のアダプテッド

- ・ ルールの工夫はクラス全体で考えてみよう。
- ・ 介助者は援助しすぎないように注意しよう。

Tweet 子どもの実態に応じて柔軟にルールを工夫していくことが大切です。また、クラスの仲間から出されるアイデアを大事にしてください。

□もっと学びたい人へ□

参考ホームページ

☆明日の体育で何をしよう？（アダプテッド定着プロジェクトHP内）

<https://adaptedproject.jimdofree.com/明日の体育で何をしよう/>

（最終的には、上記種目にあった内容のHPに飛ばしますが、現在は総集編的な内容のHPです）



水遊び・水泳運動

ステップ1 こんな子いませんか？

- ・ 顔つけて息止めがうまくいかず反射的に吸ってしまう
- ・ 腰や膝が曲がってうまく浮くことができない
- ・ 手と足の動きのタイミングが合わずに前に進まない

ステップ2 バリアはなに？

「もの」のバリア

- ・ 浮き具を使用できない

「ルール」のバリア

- ・ 全員が同じ方法で練習しなくてはならない

「人」のバリア

- ・ 補助者なしで泳ぐのは難しい

ステップ3 アダプテッドのポイント

☆「もの」のアダプテッド

- ・ 必要に応じてアームヘルパー、ヌードル、ネックフロート、スイムベストを使用する。

☆「ルール」のアダプテッド

- ・ 息止め、顔つけが難しい場合などは背浮きから練習を始める。
- ・ クロールや平泳ぎの動きが難しい場合は、背浮きで手のひらや両手を使って進むような泳法を行ってもよい。

☆「人」のアダプテッド

- ・ 安全のためマンツーマンの指導が望ましい。

Tweet

障害者(児)の水泳指導法として Halliwick (ハロウィック) 水泳法があるので参考にしてほしい。

日本 Halliwick 水泳法協会 HP <http://www.halliwick-japan.org/>

『障害者のためのハロウィック水泳法』英国水泳療法協会 (著) 文理閣

□もっと学びたい人へ□

参考ホームページ

☆明日の体育で何をしよう? (アダプテッド定着プロジェクトHP内)

<https://adaptedproject.jimdoofree.com/>明日の体育で何をしよう/

(最終的には、上記種目にあった内容のHPに飛ばしますが、現在は総集編的な内容のHPです)



小学校高学年陸上運動：ハードル走

ステップ1 こんな子いませんか？

- ・ 車いすを使用しているためハードルを跳ぶことができない
- ・ ハードル走の授業は見学や記録係になってしまい、体を動かすことがない

ステップ2 バリアはなに？

「もの」のバリア

- ・ ハードルという障害物

「ルール」のバリア

- ・ ハードルを用いた障害走に限定されている

「人」のバリア

- ・ 目標達成について他の児童と話し合えない

ステップ3 アダプテッドのポイント

☆「もの」のアダプテッド

- ・ 障害走に用いる障害をハードル以外の物にする。
- ・ 例えばコーンを置いてスキーの回転競技のようなジグザク走を行う。

☆「ルール」のアダプテッド

- ・ 全国障害者スポーツ大会の正式競技として、車いす使用者（電動車いす使用者も含む）を対象とした「スラローム」という種目がある。
- ・ 地域スポーツや生涯スポーツへの参加も視野に入れた「スラローム」のルールを教材として活用する。

☆「人」のアダプテッド

- ・ ハードル走とスラロームは同じ場所で活動し、互いに見られるようにする。
- ・ それぞれの種目の特徴や必要な工夫について互いに学び、目標達成のために

スラロームのコースやルールについては『かんたん！全国障害者スポーツ大会ガイド』

https://parasports.or.jp/about/referenceroom_data/games-guide_03.pdfなどを参考にしてください。

□もっと学びたい人へ□

参考ホームページ

☆明日の体育で何をしよう？（アダプテッド定着プロジェクトHP内）

<https://adaptedproject.jimdoofree.com/明日の体育で何をしよう/>

（最終的には、上記種目にあった内容のHPに飛ばしますが、現在は総集編的な内容のHPです）



小学校新体カテスト

ステップ1 こんな子いませんか？

- ・ 肢体不自由があり車いすを使用している児童は反復横跳び、立ち幅跳び、20メートルシャトルランなどの項目を実施することが困難である。
- ・ それ以外の項目も実施要項通りに行えない。

ステップ2 バリアはなに？

「もの」のバリア

- ・ 握力計、ソフトボールなどを操作できない。

「ルール」のバリア

- ・ 新体カテストの実施要項の通りに行うことができない。

「人」のバリア

- ・ 記録を他の児童と比較することに意味がない。

ステップ3 アダプテッドのポイント

☆「もの」のアダプテッド

- ・ 握力計の代わりに水を入れたペットボトルを使用する。
- ・ ソフトボールの代わりにテニスボールを使用する。
- ・ 車いすや歩行器を使用する。

☆「ルール」のアダプテッド

- ・ 上体起こしは頭を上げていられる時間を測定する。
- ・ 反復横跳びは車いすで1分間に2m離れた2本の線を越えた回数を数える。
- ・ 20mシャトルランは5分間走にする。
- ・ 50m走は走る距離を短くする。
- ・ 立ち幅跳びは歩行器を用いて一歩思い切り蹴って進んだ距離を測定する。

☆「人」のアダプテッド

- ・ 長座体前屈は姿勢を維持できるように後ろから腰を補助して実施する。

- ・ 各項目のアダプテッドは児童一人ひとりの実態に応じて柔軟に変更してください。
- ・ アダプテッドした新体カテストを実施することによって、児童生徒に自己の体力を理解させ、自らの健康の増進・体力の向上を図れるようにするとともに、児童生徒の体力の実態を把握し、指導などの参考とする、という新体カテストのねらいを達成することができます。

□もっと学びたい人へ□

参考ホームページ

☆明日の体育で何をしよう？（アダプテッド定着プロジェクトHP内）

<https://adaptedproject.jimdoofree.com/明日の体育で何をしよう/>
（最終的には、上記種目にあつた内容のHPに飛ばしますが、現在は総集編的な内容のHPです）



小学校低学年ゲーム：ドッジボール

ステップ1 こんな子いませんか？

- ・ 硬くて速いボールに当たると痛くて怖い
- ・ 車いすでは動きの切り替えが難しくボールをよけられない
- ・ 車いすの表面積が大きくてボールに当たりやすい
- ・ 足元のボールを捕球できない
- ・ 投げる力が弱くてボールを相手に当てられない

ステップ2 バリアはなに？

「もの」のバリア

- ・ 硬くて速いボールは痛くて怖い

「ルール」のバリア

- ・ 車いすでプレイすることが不利になる
- ・ ノーバウンドで相手に当てられない

「人」のバリア

- ・ チーム分けの段階で不公平と言われる
- ・ 介助者が手伝いすぎてもつまらない

ステップ3 アダプテッドのポイント

☆「もの」のアダプテッド

- ・ スポンジなど軽くて柔らかい素材のボールを使用する。

☆「ルール」のアダプテッド

- ・ 以下のようにセーフ、アウト、キャッチの判定を変更する。
 - ◆ 頭部及び車いすの駆動輪（後輪）と側面はあたってアウトにならずセーフになる。
 - ◆ 頭部以外の体及び車いす背面のバックレストにあたったときにアウトになる。
 - ◆ フットレストとキャスト（前輪）にあたったときはキャッチとする。
- ・ 車いすの児童が投げたボールはツーバウンドまであてられたことにする。

☆「人」のアダプテッド

- ・ ルールを工夫することでクラス分けが公平になるようにみんなで考えよう。
- ・ 介助者は援助しすぎないように注意しよう。

Tweet 子どもの実態に応じて柔軟にルールを工夫していくことが大切です。また、クラスの仲間から出されるアイデアを大事にしてください。ボールの代わりに柔らかい素材のフライングディスクを用いたドッジボール（ドッジビー）も楽しいと思います。チャレンジしてください。

□もっと学びたい人へ□

参考ホームページ

☆明日の体育で何をしよう？（アダプテッド定着プロジェクトHP内）

<https://adaptedproject.jimdoofree.com/明日の体育で何をしよう/>

（最終的には、上記種目にあった内容のHPに飛ばしますが、現在は総集編的な内容のHPです）



ボール運動：バスケットボール（ゴール型）

ステップ1 こんな子いませんか？

- ・ 運動制限があるために、運動強度を上げられない。
- ・ 人と接触するのが怖い。
- ・ ボールが怖くてキャッチすることができない
- ・ ボールの投げ方がよくわからない。

ステップ2 バリアはなに？

「もの」のバリア

- ・ ボールの素材
- ・ ゴールの大きさや高さ

「ルール」のバリア

- ・ プレー時間
- ・ メンバー交代の制限
- ・ コートの広さ

「人」のバリア

- ・ 力加減がわからない
- ・ 活動する人数

ステップ3 アダプテッドのポイント

☆「もの」のアダプテッド

- ・ 柔らかいボールを使用してみよう。
- ・ ゴールの大きさや高さ、数を変更してみよう。

☆「ルール」のアダプテッド

- ・ 一人あたりのプレー時間に制限を設けてみよう。
- ・ メンバー交代は無制限に、いつでもできるようにしてみよう。
- ・ フィールドをゾーンで区切り、活動エリアとポジションに制限をかけてみよう。

☆「人」のアダプテッド

- ・ どんなパスなら取れるか、チームメイトに確認をする時間を設定してみよう。
- ・ 接触しないように、ゲームに入る人数を調整してみよう。

Tweet 自分たちなりのバスケット・ボールを工夫してみよう。諦めたら、そこで試合終了です。

□もっと学びたい人へ□

参考ホームページ

☆明日の体育で何をしよう？（アダプテッド定着プロジェクトHP内）

<https://adaptedproject.jimdofree.com/明日の体育で何をしよう/>

（最終的には、上記種目にあった内容のHPに飛ばしますが、現在は総集編的な内容のHPです）



ゲーム: ティー・ボール (ベースボール型)

ステップ1 こんな子いませんか?

- ・ 全力疾走を禁止されている。
- ・ 野球が大好きで、やりたい気持ちが強い。
- ・ 不器用さがあり、動いているボールを打つことは難しい。

ステップ2 バリアはなに?

「もの」のバリア

- ・ ボールが小さい
- ・ バットが細い

「ルール」のバリア

- ・ 動いているボールが打てない
- ・ ルールが複雑

「人」のバリア

- ・ 発育や運動技能の差が大きい
- ・ 全力疾走ができない

ステップ3 アダプテッドのポイント

☆「もの」のアダプテッド

- ・ ボールを大きくしたり、バットをラケットに変えたりしてみよう。
- ・ 「くじ引き」など、新しい教材・教具を追加してみよう。

☆「ルール」のアダプテッド

- ・ 攻撃だけにして、フィールドにヒットやアウトなどのエリアを設定してみよう。
- ・ 自分で道具を選べるようにしてみよう。

☆「人」のアダプテッド

- ・ 必要に応じて、バッターボックスの位置を変えてみよう。
- ・ くじ引きを使った運的な要素を入れることで、運動技能や体格差を解消してみよう。

Tweet

通常のルールに「くじ引き」などの運的な要素を入れることで、発育・発達等による体格差や運動技能の差を解消することができます。

□もっと学びたい人へ□

参考ホームページ

☆明日の体育で何をしよう？（アダプテッド定着プロジェクトHP内）

<https://adaptedproject.jimdofree.com/明日の体育で何をしよう/>
（最終的には、上記種目にあった内容のHPに飛ばしますが、現在は総集編的な内容のHPです）



研修用ガイドブック

アダプテッド定着プロジェクト

令和4年度スポーツ庁委託事業 代表 齊藤まゆみ(筑波大学)

問い合わせ:事務局 澤江幸則 sawae.yukinori.ka@u.tsukuba.ac.jp

2023年 1 月 随時更新中